

55 歳からの楽しみや生きがいづくりに関する意識調査

～アクティブシニアによる活力あるまちづくりに向けて～

報 告 書

平成 19 年 3 月

豊 橋 市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の背景	1
2. 調査の方法	2
(1) アンケート調査	2
(2) ヒアリング調査	2
(3) 調査実施機関	3
3. アンケートの回収状況	3
第2章 調査結果	6
1. アンケート調査	6
(1) 調査項目	6
(2) 調査結果	6
2. ヒアリング調査	21
(1) 調査内容	21
(2) 調査結果	21
第3章 調査結果の分析	23
1. 分析の方法	24
(1) 世代の定義	24
(2) 行動・思考パターンによる分類の定義	24
2. 世代及びタイプの分析結果	25
(1) 生きがい意識の変化	25
(2) 生きがい活動の障害	27
(3) 生きがい活動の支援需要	30
(4) 生きがい活動の情報源	33
(5) 社会貢献活動に関する意識差【世代別のみ】	36
(6) 仕事に関する意識差【世代別のみ】	37
3. 世代及びタイプの意識差	38
(1) 世代による意識差	38
(2) タイプによる意識差	39
(3) 世代とタイプの関係	40
第4章 今後の課題と展望	41

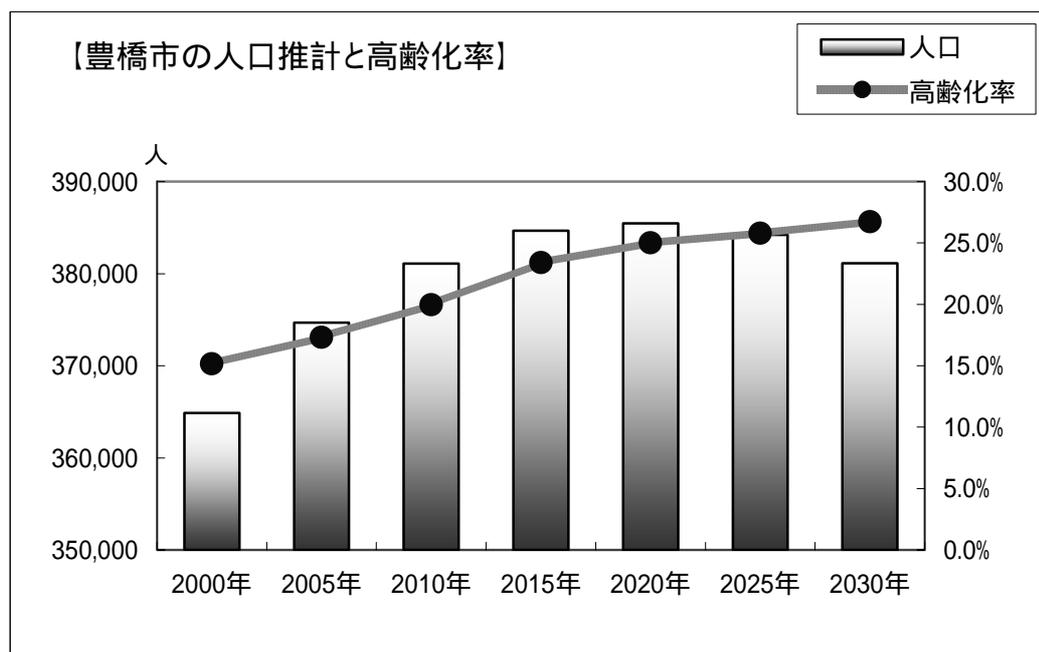
第1章 調査の概要

1. 調査の背景

我が国の総人口は、2005年10月1日現在、1億2,776万人となり、前年に比べて2万人減少し、戦後で初めてマイナスに転じた。一方高齢者人口は2020年まで急速に増加し、その後はおおむね安定的に推移する一方、総人口が減少することから高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は上昇を続け、2015年には26.0%、2050年には35.7%に達すると見込まれている。

豊橋市の状況も、2020年頃をピークに人口は減少の一途をたどり、反して高齢者数は増加、結果として高齢化率は急上昇を続け、2030年にはおよそ4人に1人が高齢者という超高齢社会が到来することが予測されている。

この高齢化率を押し上げる主因としては、団塊の世代（1947年～1949年までに生まれた世代）が今後高齢期を迎えていくことが挙げられている。



(国立社会保障・人口問題研究所 日本の市区町村別将来推計人口 2003年12月推計より)

このような背景の中、団塊の世代をはじめとしたシニア層が将来のライフスタイルや生きがいづくり等をどのように描いているのかを把握し、アクティブシニア(比較的自立し、生きがいをもって活発に活動する高年齢者)による活力のある高齢社会の実現に向けたまちづくりに反映させることを目的とした調査を実施した。

2. 調査の方法

(1) アンケート調査

ア. 調査名称

「55歳からの楽しみや生きがいづくりに関する意識調査
～アクティブシニアによる活力のあるまちづくりに向けて～」

イ. 対象

豊橋市内在住の55歳から69歳までの男女2,500名

ウ. 期間

平成18年7月7日～平成18年7月31日

エ. 標本抽出方法

小学校区を基本単位として標本サイズを統計的に算出し、小学校区人口に比例して按分後、住民基本台帳から2,000人、市内企業勤務者・各種団体所属者から500人、合計で2,500人を無作為抽出した。

オ. 調査方法

設問紙に基づく郵送法で行った。

カ. 回収結果

- ・標本数 2,500人
- ・回収数 1,166人(回収率 46.6%)
- ・有効標本回収数 1,138人(有効標本回収率 45.5%)

(2) ヒアリング調査

ア. 目的

上記アンケート調査の回答内容について直接意見を訊くことにより、今後退職を迎える世代の傾向を探る。

イ. 対象

市内企業勤務の55歳から59歳の男女20名

ウ. 期間

平成18年7月18日～平成18年8月22日

エ. 対象者選定方法

上記アンケート調査協力企業へ、アンケート調査回答者の中から対象者の選定を依頼した。

オ. 調査方法

直接訪問し聞き取り調査を行った。

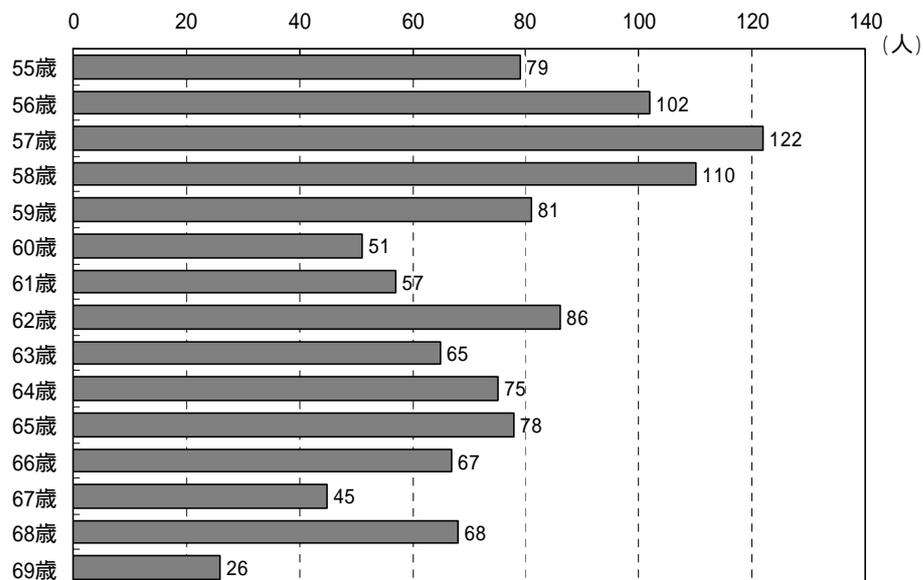
(3) 調査実施機関

社団法人東三河地域研究センターへ委託した。

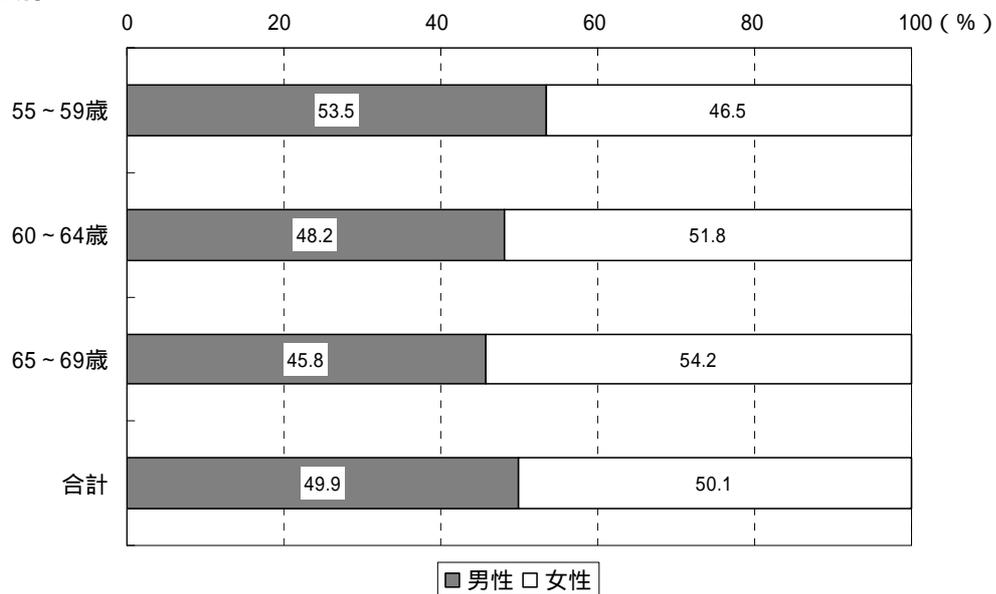
3. アンケートの回収状況

各項目における回答者の構成は以下のとおりである。

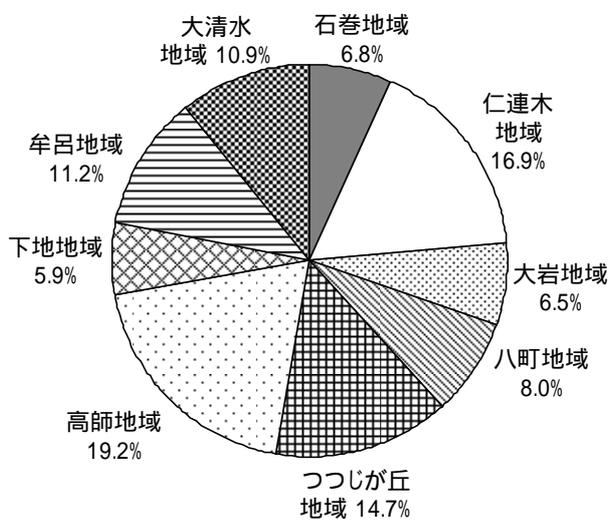
(1) 年齢



(2) 性別



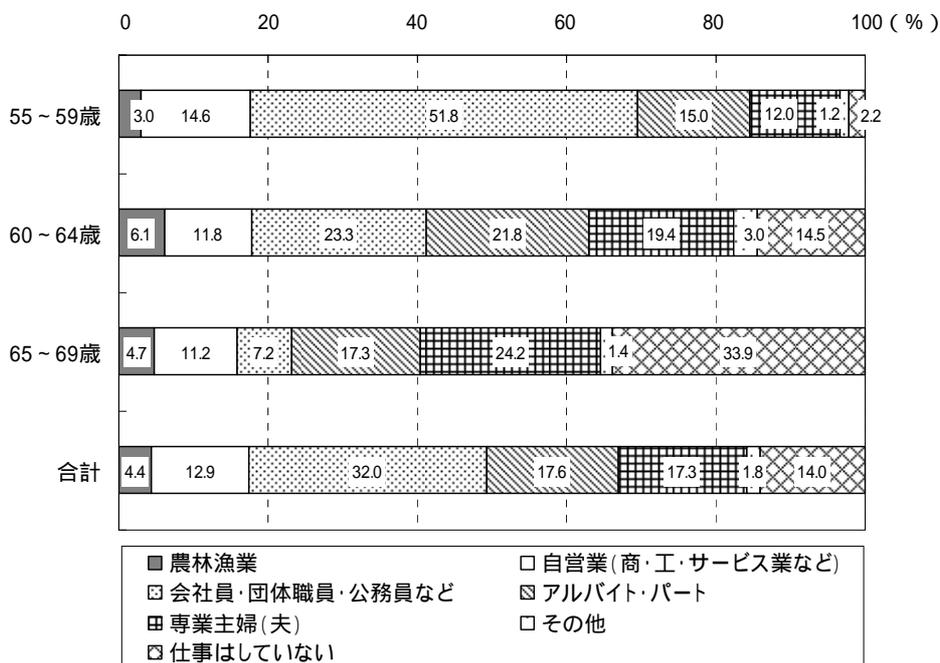
(3) 居住地



回答結果を老人福祉センター及び地域福祉センターを中心とした9地域に分類

地域名	左記地域に含まれる居住地(小学校区)					
石巻地域	賀茂	西郷	下条	玉川	嵩山	石巻
仁連木地域	牛川	東田	鷹丘	多米	岩田	豊
大岩地域	二川	谷川	二川南	小沢	細谷	
八町地域	松葉	八町	旭	松山	新川	
つつじが丘地域	向山	岩西	飯村	幸	天伯	つつじが丘
高師地域	福岡	中野	栄	磯辺	芦原	高師
下地地域	前芝	津田	下地	大村		
牟呂地域	吉田方	花田	牟呂	汐田	羽根井	
大清水地域	大崎	植田	杉山	老津	大清水	野依
	富士見	豊南	高根			

(4) 職業



(5) 家族構成

家族構成 (同居者)	構成比 (%)	
	小計	計
単身	6.9	6.9
夫または妻	32.6	39.4
親	1.5	
子	4.5	
孫	0.1	
その他	0.6	
夫または妻	4.9	
夫または妻	26.4	
夫または妻	0.2	
親	0.5	
親	0.2	
子	1.9	
夫または妻	9.5	17.8
夫または妻	8.0	
夫または妻	0.1	
親	0.2	
夫または妻	1.6	
夫または妻	0.1	
夫または妻	0.1	1.7
夫または妻	0.1	0.1
計	100.0	100.0

第2章 調査結果

1. アンケート調査

本報告書では主要データのみ掲載し、アンケート項目等の詳細内容については、別冊資料編に掲載している。

(1) 調査項目

ア．現在と5年後のライフスタイル

現在と5年後におけるシニアの生きがい・楽しみを調査し、ライフスタイルを把握する。

イ．シニア向けの行政サービス

シニア向けの行政サービスの現在および将来の活用について把握する。

(2) 調査結果

ア．現在と5年後のライフスタイル

【問1】現在のあなたの普段の「楽しみ」や「生きがい」は何ですか。

テレビ、ラジオ、仲間と集まったり、おしゃべりすることや親しい友人との交際を選んだ人が多く、比較的身近なところに生きがいを求めている。

(上位回答)

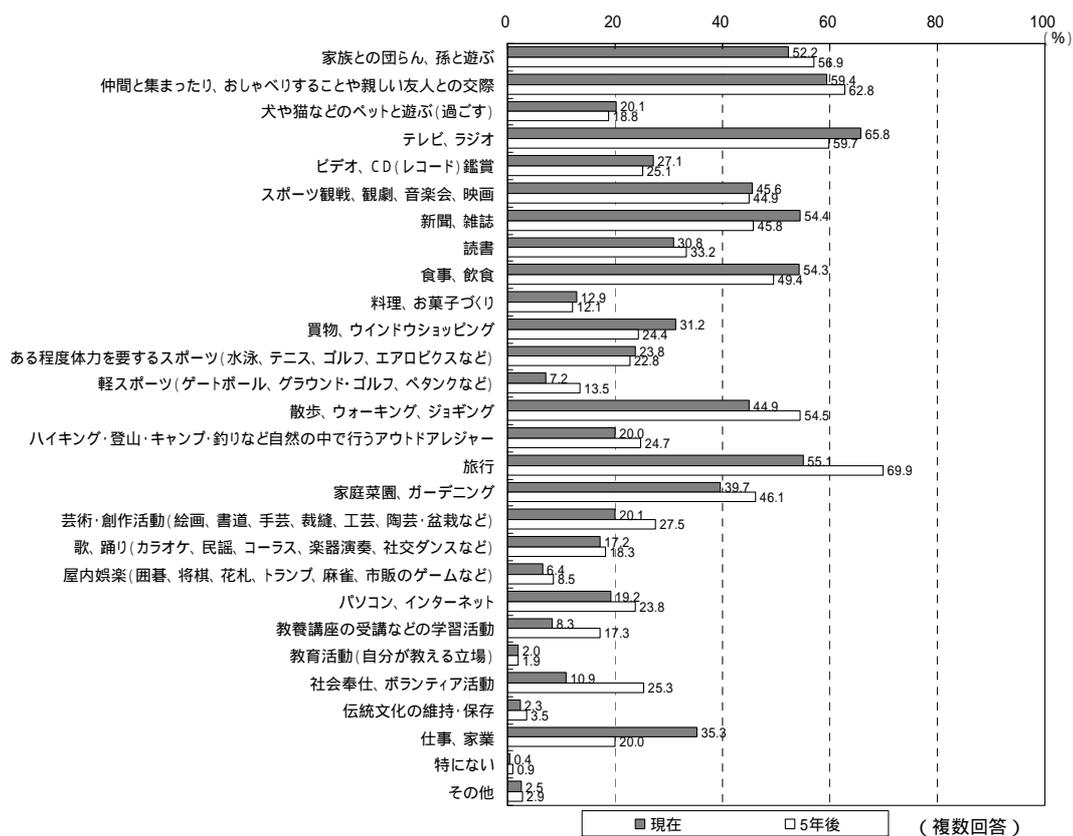
- ・「テレビ、ラジオ」(65.8%)
- ・「仲間と集まったり、おしゃべりすることや親しい友人との交際」(59.4%)
- ・「旅行」(55.1%)

【問2】あなたの5年後における「楽しみ」や「生きがい」は何だと思えますか。

旅行を生きがいとしたいとする人が多い一方、4人に1人は社会奉仕活動を生きがいにしたいと考えている

(上位回答)

- ・「旅行」(69.9%)
- ・「仲間と集まったり、おしゃべりすることや親しい友人との交際」(62.8%)
- ・「テレビ、ラジオ」(59.7%)

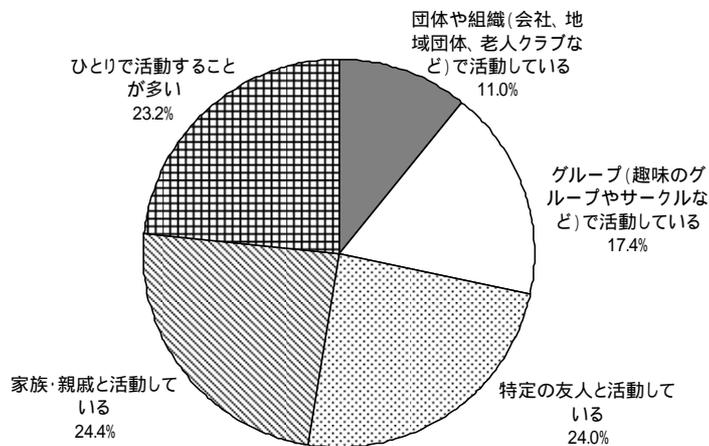


【問3】「問1」でお答えいただいた活動をするとき、あなたは主に誰と活動していますか。

団体やグループによる多人数での活動より少人数での活動が多い。

(上位回答)

- ・「家族・親戚と活動している」(24.4%)
- ・「特定の友人と活動している」(24.0%)
- ・「ひとりで活動することが多い」(23.2%)

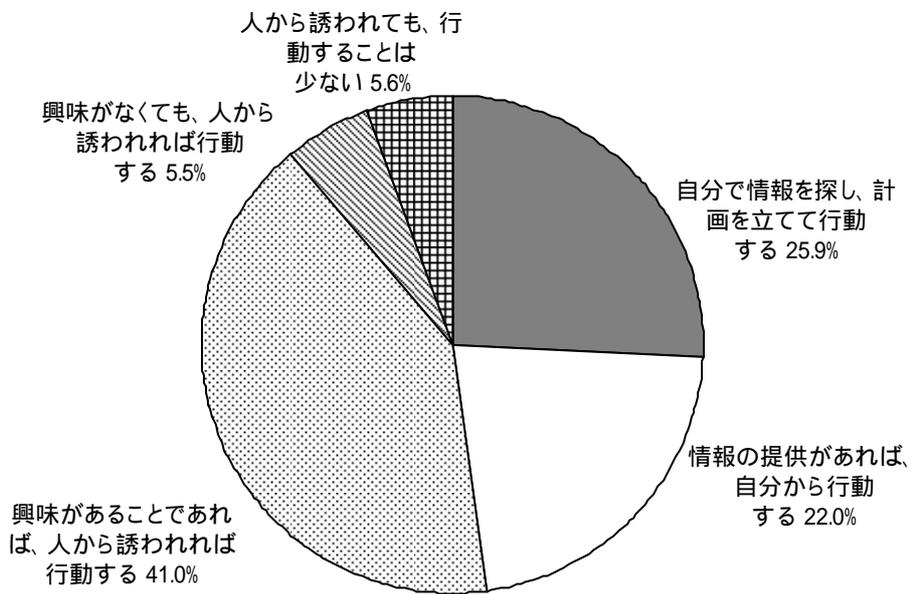


【問4】あなたは普段どのように行動することが多いですか。

人から誘われれば行動する人と自分から行動する人がほぼ同数である。

(上位回答)

- ・「興味があることであれば、人から誘われれば行動する」(41.0%)
- ・「自分で情報を探し、計画を立てて行動する」(25.9%)
- ・「情報の提供があれば、自分から行動する」(22.0%)

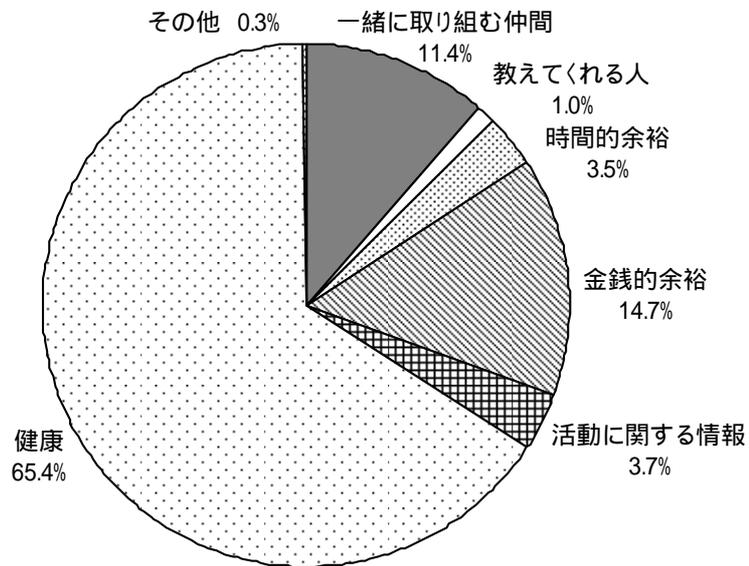


【問5】あなたが「問2」のように5年後、「楽しみ」「生きがい」を感じて生活していくために最も重要なことは何だと思えますか。

「健康」を選ぶ人が圧倒的に多く、6割以上の人が必要としている。

(上位回答)

- ・「健康」(65.4%)
- ・「金銭的余裕」(14.7%)
- ・「一緒に取り組む仲間」(11.4%)



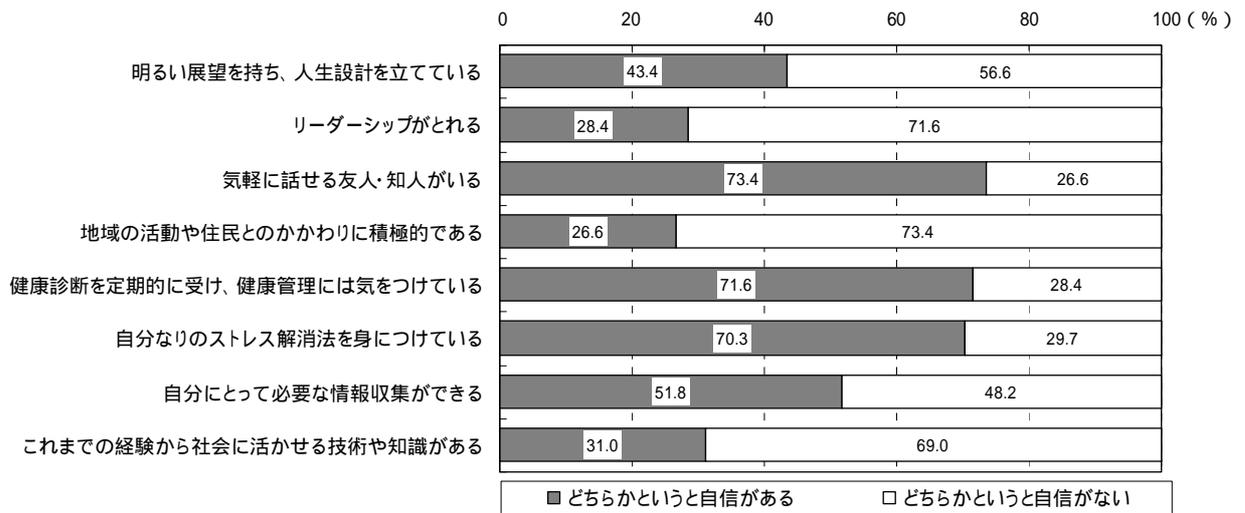
【問6】あなたは次のことに対してどのくらい自信がありますか。

身近な人との関係にはある程度自信をもっているが、社会的な関係については比較的自信がない人が多い。

「どちらかという自信がある」

(上位回答)

- ・「気軽に話せる友人・知人がいる」(73.4%)
- ・「健康診断を定期的に受け、健康管理には気をつけている」(71.6%)
- ・「自分なりのストレス解消法を身につけている」(70.3%)

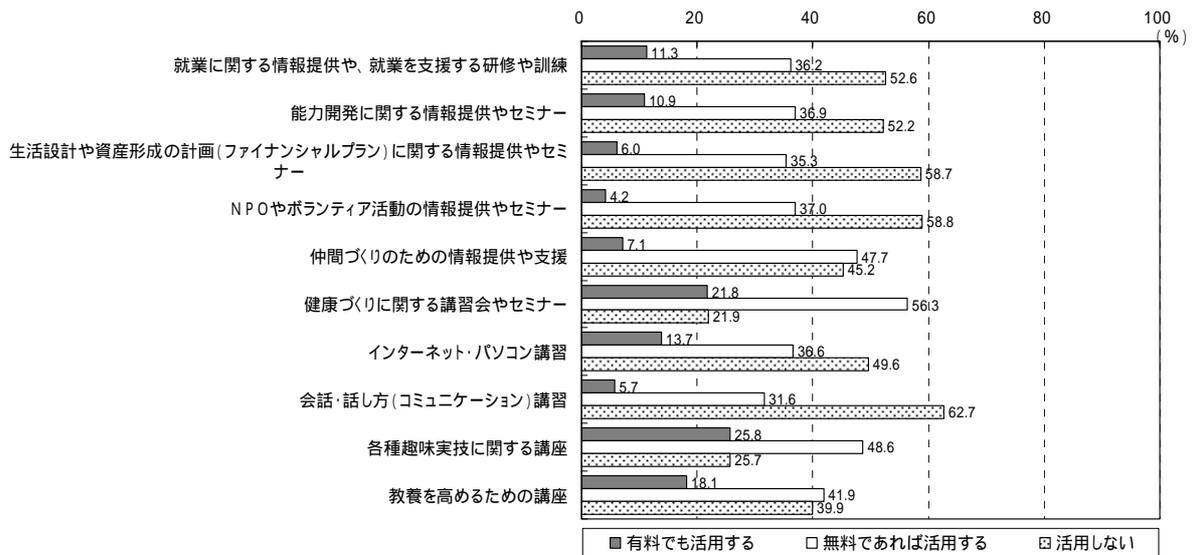


【問7】新たな「楽しみ」「生きがい」を見出すためには、あなたは、次のような支援策や講習があれば活用したいと思いますか。

健康づくりや各種趣味実技に関する講座への需要は高い。

活用する（「有料でも活用する」「無料であれば活用する」）
（上位回答）

- ・「各種趣味実技に関する講座」（有料 25.8% 無料 48.6% 計 74.4%）
- ・「健康づくりに関する講習会やセミナー」（有料 21.8% 無料 56.3% 計 78.1%）
- ・「教養を高めるための講座」（有料 18.1% 無料 41.9% 計 60.0%）

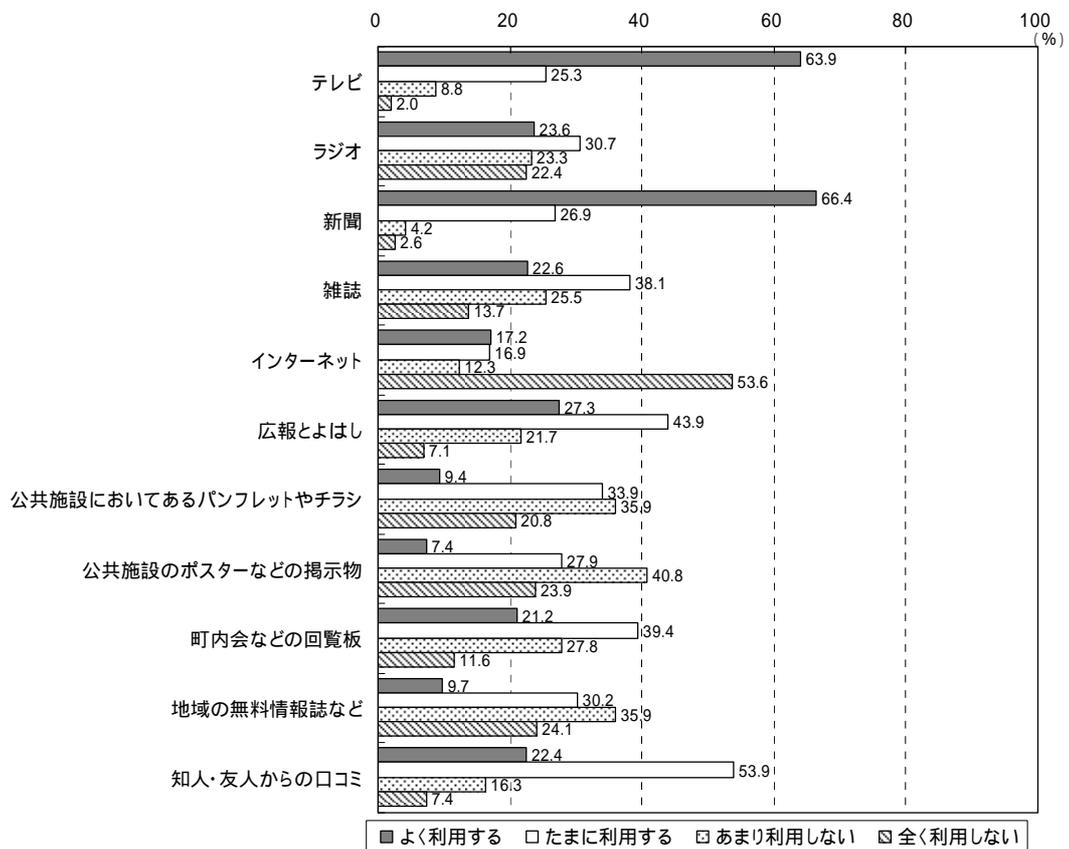


【問 8】あなたが普段利用する主な情報源は何ですか。

新聞、テレビを利用する人の割合が圧倒的に多い。

「よく利用する」(上位回答)

- ・「新聞」(66.4%)
- ・「テレビ」(63.9%)
- ・「広報とよはし」(27.3%)

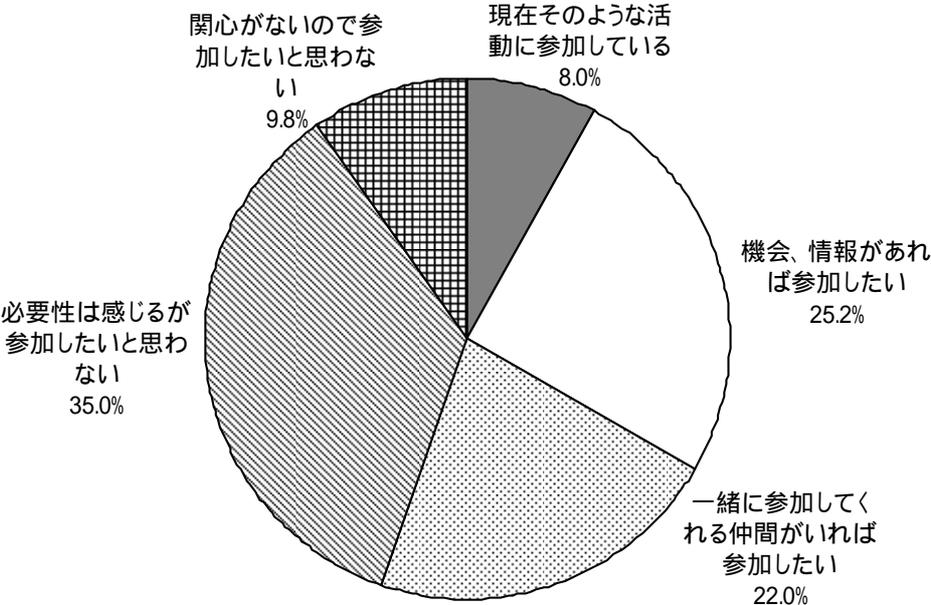


【問9】地域活動、NPO活動やボランティアなどの社会参加・貢献活動について、あなたの考えに近いもの1つに○をつけてください。

現在既に参加している、今後参加したいと回答した人が全体の過半数を占めている。

(上位回答)

- ・「必要性は感じるが参加したいと思わない」(35.0%)
- ・「機会、情報があれば参加したい」(25.2%)
- ・「一緒に参加してくれる仲間がいれば参加したい」(22.0%)

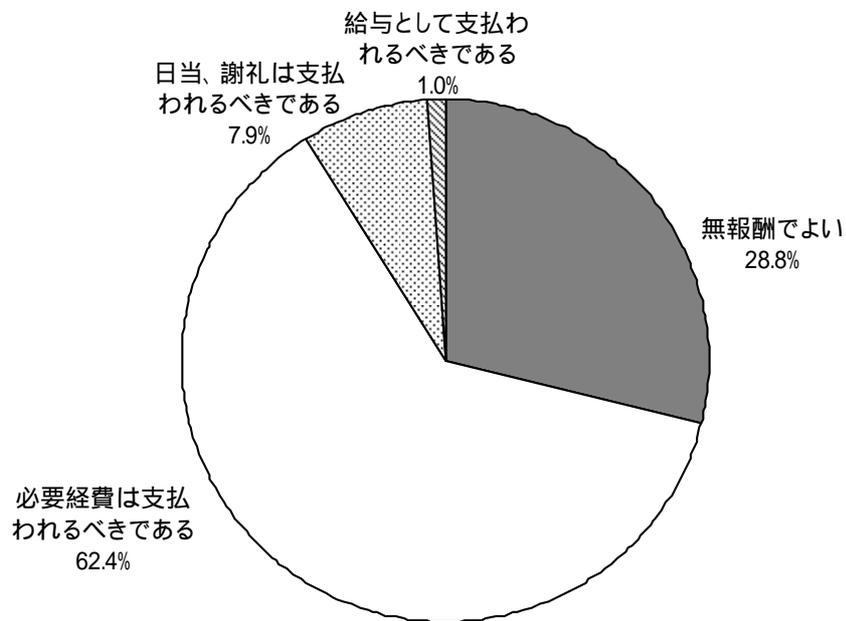


【問10】あなたは、「問9」の活動をするとした場合、報酬等についてどのように考えますか。

約6割の人が「必要経費は支払われるべきである」と考えている。

(上位回答)

- ・「必要経費は支払われるべきである」(62.4%)
- ・「無報酬でよい」(28.8%)
- ・「日当、謝礼は支払われるべきである」(7.9%)

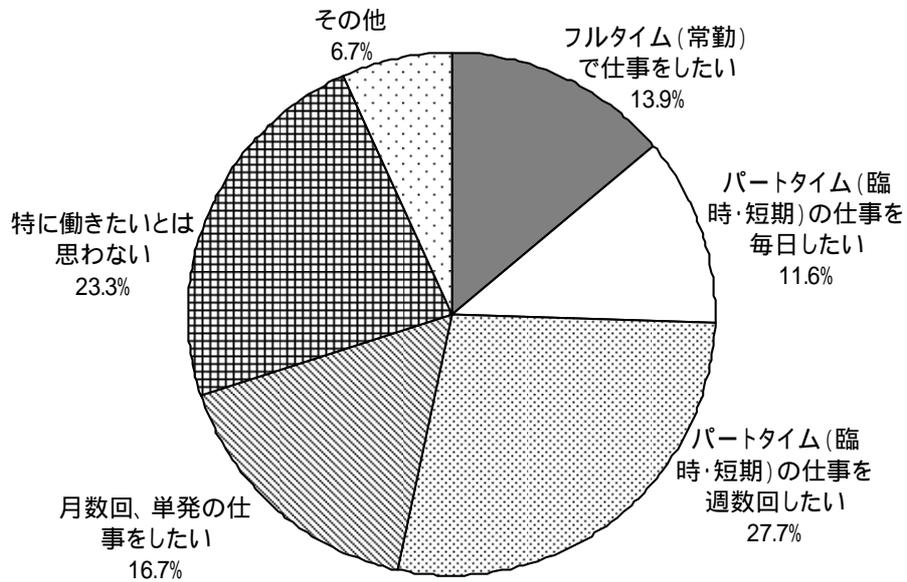


【問 11】仕事についてお伺いします。5年後にあなたが「仕事」をするとすれば、どの程度の仕事をしたいと思いますか。

5年後においても7割の人が何らかの形態で働きたいとしている。

(上位回答)

- ・「パートタイム(臨時・短期)の仕事を週数回したい」(27.7%)
- ・「特に働きたいとは思わない」(23.3%)
- ・「月数回、単発の仕事をしたい」(16.7%)

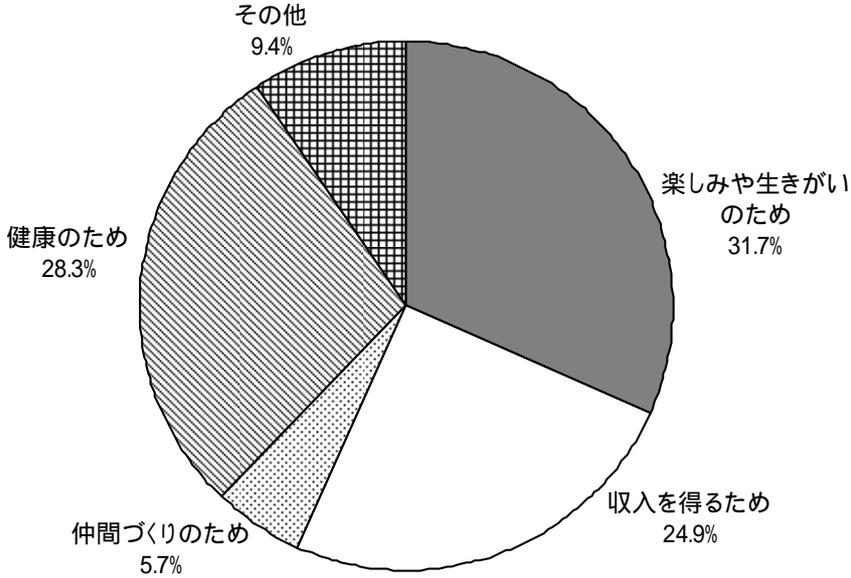


【問12】「問11」で答えていただいたことについて、その最も強い理由はなんですか。

仕事を生きがい、健康のためとする人が全体の約6割を占め、収入を得るためを上回っている。

(上位回答)

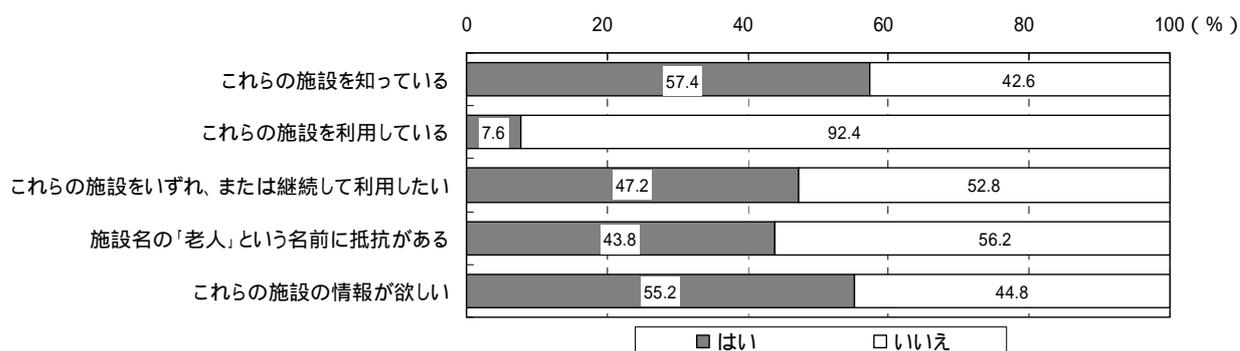
- ・「楽しみや生きがいのため」(31.7%)
- ・「健康のため」(28.3%)
- ・「収入を得るため」(24.9%)



イ．シニア向けの行政サービス

【問 13】豊橋市には、「老人福祉センター」とその機能を備えた「地域福祉センター」、「老人憩の家」などの施設があります。これらの施設について、当てはまるものを各項目につき1つ○をつけてください。

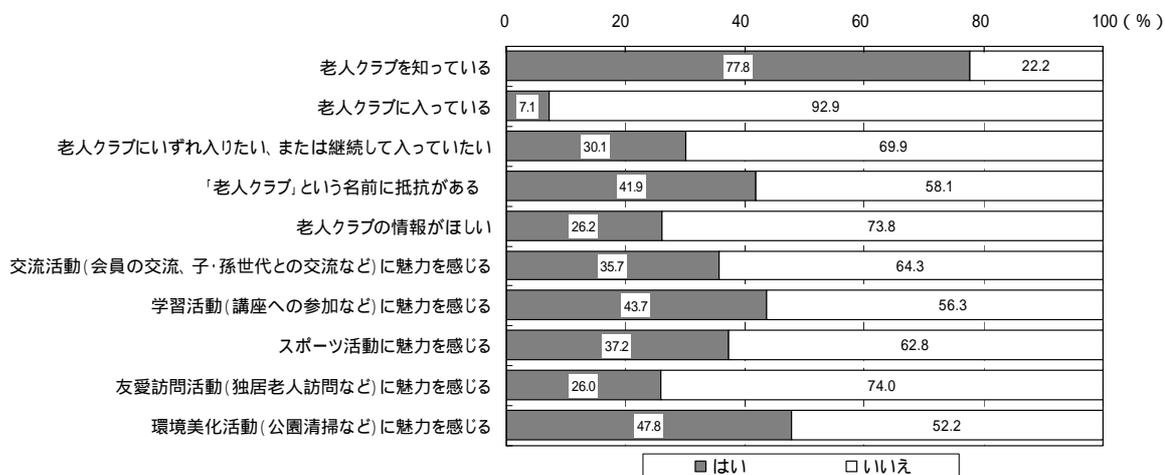
施設の情報が欲しいとの回答が5割を超えている。



【問 14】豊橋市には、各地域に「老人クラブ」があり、多様な活動をおこなっています。「老人クラブ」について、当てはまるものを各項目につき1つ○をつけてください。

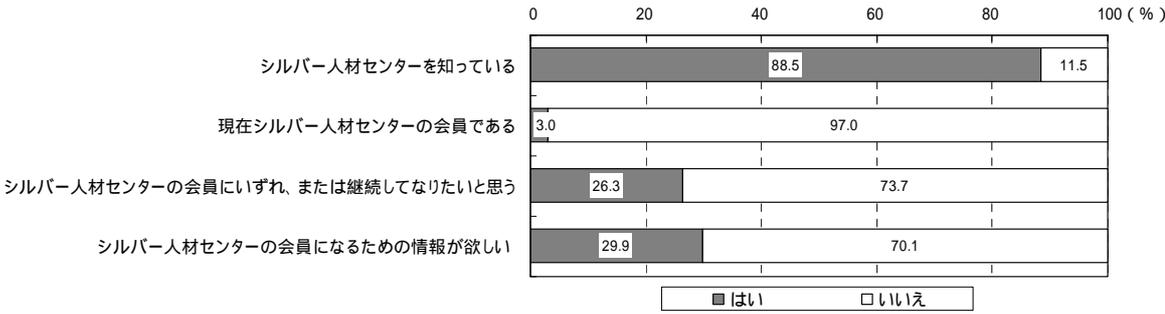
約8割の人が老人クラブを知っていて、知名度は高い。

老人クラブの活動については、環境美化活動のような集団で行う社会奉仕活動に魅力を感じている人が最も多い。



【問 15】豊橋市には、働く喜びと社会参加の輪を広げるため、「シルバー人材センター」があります。「シルバー人材センター」について、当てはまるものを各項目につき1つ○をつけてください。

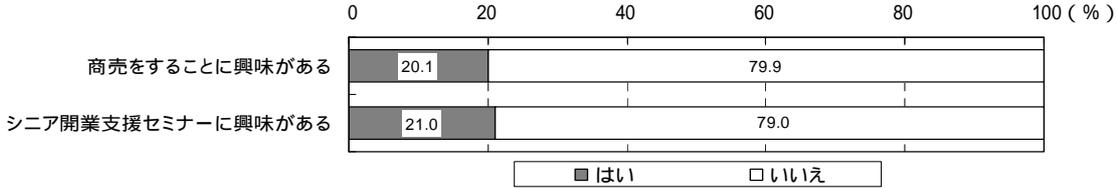
シルバー人材センターを知っている人は9割弱と知名度は高い。



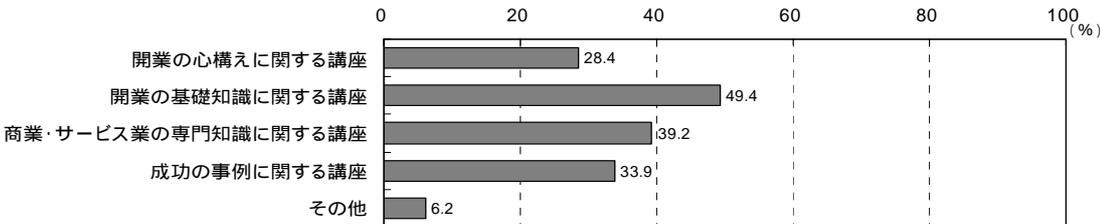
【問 16】今年度豊橋市では、退職後に商業・サービス業等の開業をしたい人を支援する「シニア開業支援セミナー（仮称）」の開催を予定しています。このセミナーに対する意見をお聞かせください。

商売をすることに興味のある人とシニア開業支援セミナー（仮称）に興味のある人は同数であり、商売をすることに興味のある人にとってはセミナー開催に期待するところが大きい。

（興味の有無）



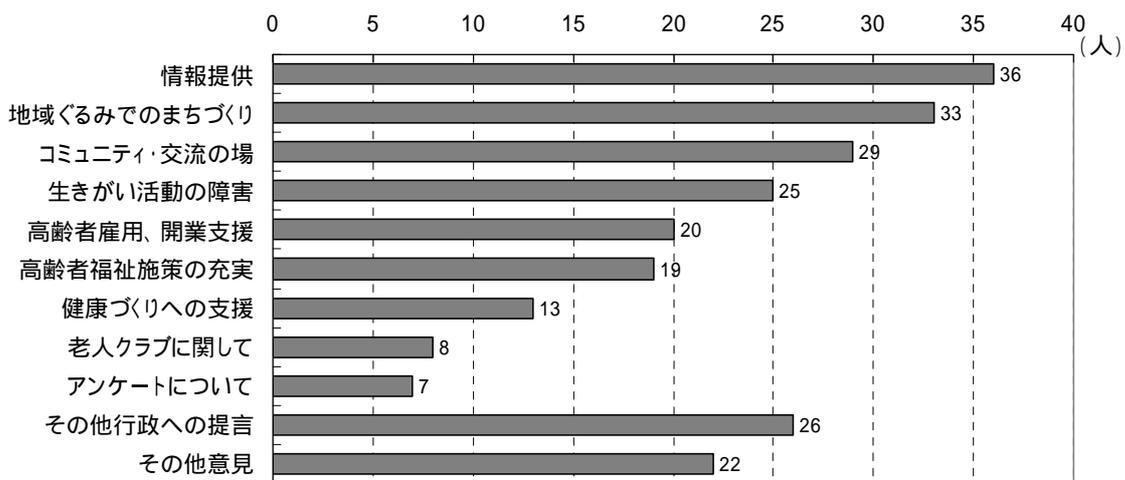
（興味のある講座内容）



今回の調査結果を参考にして豊橋市が行政サービスを行う場合、あなたはどのようなことを期待しますか。ご自由にお書きください。

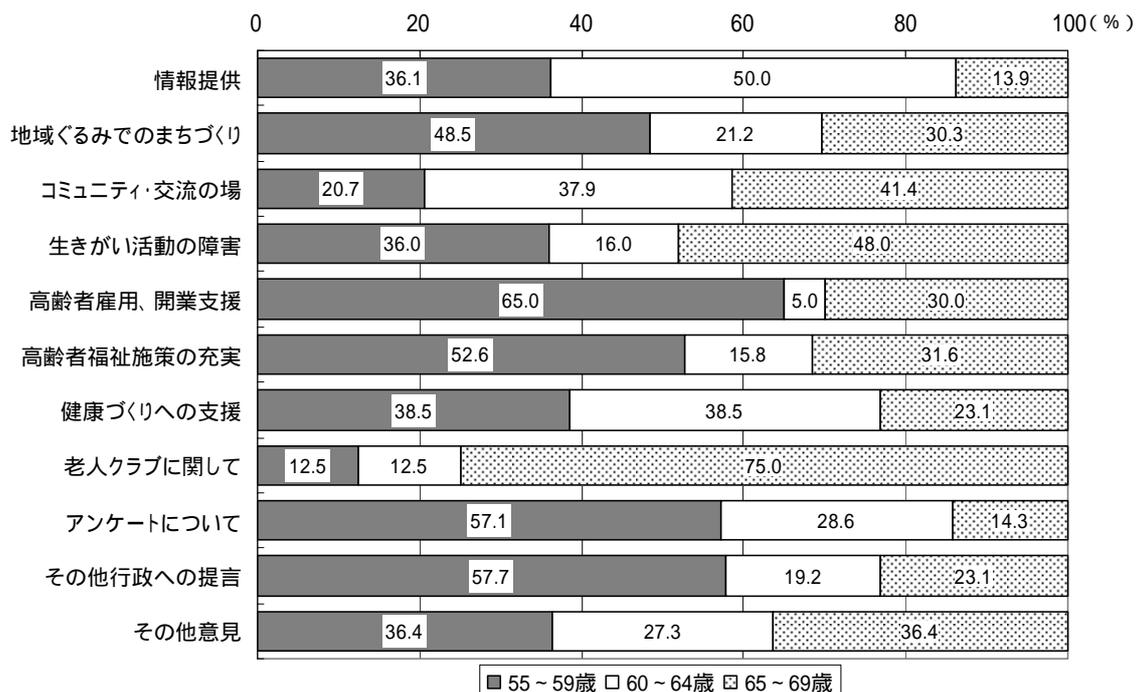
(自由意見の概要)

情報提供を求める声が多く、次いで地域ぐるみのまちづくり、交流の場についての意見が多い。



(自由意見の世代別内訳)

世代別に見ると、55歳世代に高齢者雇用に関する意見についての回答が際立っている。



自由意見の主なもの

情報提供

- ・高齢者に期待する事柄、提供できる情報が入手しやすい環境を整備してほしい。
- ・老人が気軽に使える施設や機関をPRしてほしい。

地域ぐるみでのまちづくり

- ・地域のニーズに対応したサービスをお願いします。
- ・地域のつながりの希薄さに不安を感じる。

コミュニティ・交流の場

- ・高齢者同士が憩えるサロンのような場所が身近なところにほしい。
- ・老人と子供（子供の親）等が参加する縦のつながりの行事を行って、地域が活発にコミュニケーションを取れるとよい。

生きがい活動の障害

- ・納税、医療費などの金銭的負担が大きい。
- ・外出手段が無いので近くにしか行けない。

高齢者雇用、開業支援

- ・長年育んできたシニアの技量が活かされる場があることを望みます。
- ・老人が多くなるので、必要経費を払って老人の手で町をきれいにしてほしい。

高齢者福祉施設の充実

- ・ケアホームのような比較的自由に生活ができ、一定の生活への補助がある施設の増設。
- ・高齢者福祉、介護支援を充実してほしい。

健康づくりへの支援

- ・健康維持の施設や健康診断の充実。
- ・体操講座などの健康づくりの支援がほしい。

老人クラブについて

- ・地域の人々や他団体などと連携した活動をしていかなければ、地域に受け入れられない存在となる可能性もある。

アンケートについて

- ・統計結果について、集計及び分析結果を公表してください。

その他行政への提言

- ・ボランティアに生きがいを感じられるような行政を期待する。
- ・これからの豊橋を担う若者に対する行政施策をしてほしい。

その他意見

- ・行政には何も期待しない。
- ・高齢者扱いしてほしい。

2. ヒアリング調査

(1) 調査内容

・退職後のライフスタイル

退職後の生きがい、楽しみと仕事及び社会貢献について調査し、その活動への取り組み、期待などライフスタイルについて把握する。

・シニア向け行政サービス

「老人クラブ」、「老人福祉センター」、「シルバー人材センター」の認知、利用、情報について調査し、シニア向け行政サービスの現在および将来の活用について把握する。

(2) 調査結果

退職後のライフスタイル

【退職後の暮らし】

- ・ほとんどの人が退職後の暮らしを意識して考えたことがある。しかし、その一部は再雇用制度が始まり、退職が遠退いたため考えることをやめてしまった。
- ・退職後に何を生きがいにすべきか分からないという人は少ない。
- ・退職後の心配事は自身の健康であり、健康について関心が高い。退職後も運動不足とならないようにウォーキングなどで健康維持を図りたいとする人が多く、中にはジムに通うという積極的な人もいる。
- ・年金、増税など昨今のシニアをとりまく社会環境の変化に不安を感じている。

【仕事】

- ・退職後も経験を生かした仕事を続けたいという人が多く、その大部分が再就職ではなく再雇用を期待している。
- ・生きがいや健康のために仕事を続けたい人は、パートなど短時間労働を希望している。

【社会貢献活動】

- ・ほとんどの人が、退職後は社会貢献活動にて社会に恩返しをすべきであると考えている。
- ・ボランティア活動をすると答えている人が多く、ボランティアについての情報提供や勧誘を期待している。
- ・ボランティアを経験したことのない人は、参加に消極的である。
- ・比較的多くの人が、今までは仕事で地域活動に参加できなかったため、退職後は参加したいと考えている。

【情報収集】

- ・インターネットについては、仕事を通じて習得した人が多く、情報収集手段として多くの人が利用できる。

シニア向け行政サービス

【老人クラブ】

(入会したいと答えた人)

- ・地域での仲間を求めることが入会したいと考える動機となっている。
- ・仕事から完全に離れた60歳代後半以降になると、老人クラブに興味をもち、入会をしたいと考えている人が多い。
- ・活動内容に地域支援活動を取り入れてはどうかなど、新たな提案をもっている積極的な人もいる。

(入会しないと答えた人)

- ・活動内容が自分にあわない、独自性がなく興味が湧かない、他にやりたいことがあるなどが入会しない理由である。

【老人福祉センター】

- ・知名度が低く内容もあまり知られていない。
- ・老人福祉センターについて情報がほしいという人が多い。

【シルバー人材センター】

- ・知名度は高く名前を知っている人は多いが、草刈り、樹木の剪定以外は活動内容についてあまり知られていない。
- ・自分がどんな業務に登録できるのかわからないという人が多い。

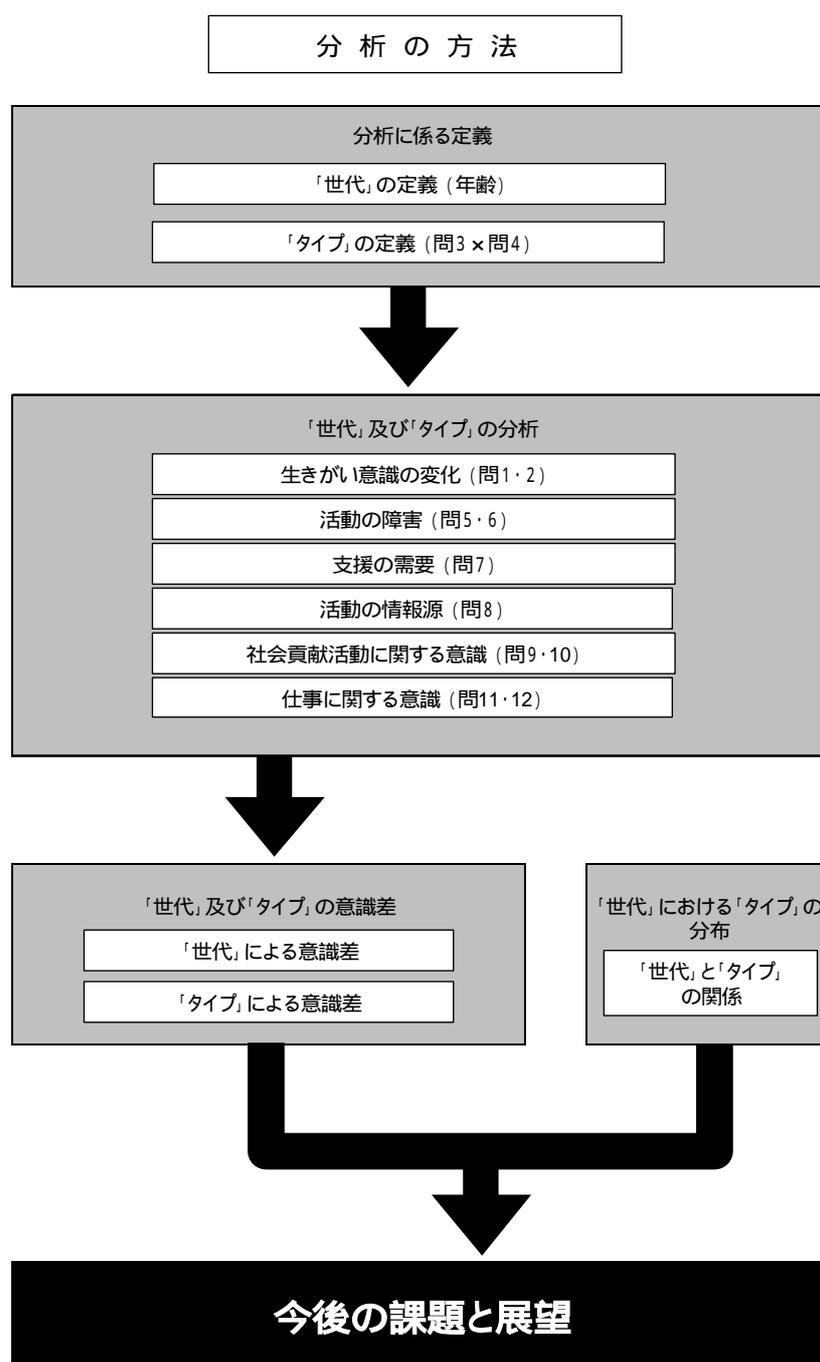
第3章 調査結果の分析

アンケート調査結果およびヒアリング調査結果より、

(1) 世代間の意識差

(2) 行動・思考パターンより分類したタイプ別の意識差

の二つの側面からシニア像を把握するとともに、各世代・タイプの意識差と関係を探り、今後の課題と展望の検討を行う。

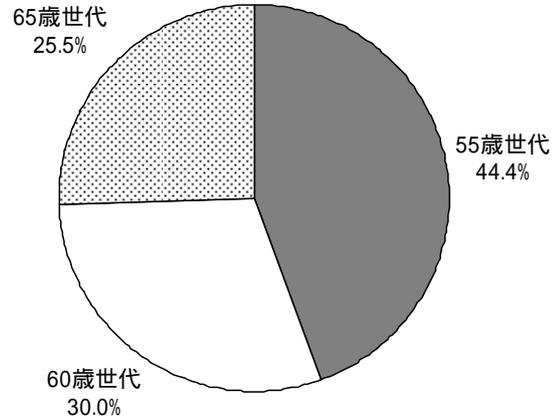


1. 分析の方法

(1) 世代の定義

年齢を以下の3つの区分に分類する。

区分	年齢層	構成比率
55歳世代	55～59歳	44.4%
60歳世代	60～64歳	30.0%
65歳世代	65～69歳	25.5%



(2) 行動・思考パターンによる分類の定義

行動・思考パターンによる意識差を分析するため、以下の～の手順で分類する。

問3「多くの人と関わりがあるかどうか(社会性)」と問4「積極的に行動するかどうか(積極性)」の回答者について、(i)(ii)によりそれぞれ3種類に分類する。

分類したものを、クロスさせて9つにグループ化する。

9つにグループ化したものを、それぞれタイプ1～タイプ9とした。

(i) 問3の回答項目を社会性により、以下の3種類に分類する。

社会性	分類区分	問3の回答項目
	団体やグループで活動	<ul style="list-style-type: none"> ・団体や組織で活動 ・グループで活動
	ごく親しい範囲の人と活動	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の友人と活動 ・家族親戚と活動
	ひとりで活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりで活動

(ii) 問4の回答項目を積極性により、以下の3種類に分類する。

積極性	分類区分	問4の回答項目
	自分から行動する	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で情報を探し、計画を立て行動する ・情報の提供があれば、自分から行動する
	誘われれば行動する	<ul style="list-style-type: none"> ・興味があることであれば、人から誘われれば行動する ・興味がなくても、人から誘われれば行動する
	誘われても、行動することは少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・人から誘われても、行動することは少ない

【行動・思考パターンによる集計結果】

		← 社会的		← 個人的 →	
		□□		□□	
問3 社会性		団体やグループで活動	ごく親しい範囲の人と活動	ひとりで活動	
問4 積極性					
↑ 積極的 ↓ 消極的	自分から行動する	タイプ1 (15.7%)	タイプ2 (20.9%)	タイプ3 (12.6%)	
	誘われれば行動する	タイプ4 (12.1%)	タイプ5 (26.3%)	タイプ6 (7.2%)	
	誘われても行動することは少ない	タイプ7 (0.5%)	タイプ8 (1.4%)	タイプ9 (3.3%)	

本報告書では、タイプ7～9の各回答者が全体の0.5～3.3%と少数であり、分析に必要な標本数に不足を生じたため、タイプ1～6のみを分析対象とした。

2. 世代及びタイプの分析結果

生きがい意識の変化（問1・2）、生きがい活動の障害となっているもの（問5・6）、生きがい活動の支援需要（問7）、活動の情報源（問8）について、世代別、タイプ別に分析した。また、社会貢献等（問9・10）、仕事（問11・12）の分析は世代別のみ行った。

（1）生きがい意識の変化

問1、問2「現在と5年後の楽しみ」を世代別、タイプ別に比較した。

【世代別】

現在の生きがいは、全ての世代に共通して「テレビ、ラジオ」「仲間とおしゃべり」のような手軽で身近な活動内容が多い。5年後は、今まで生きがいとしてきた手軽で身近な活動から脱却し、「旅行」に代表されるような外出活動が活発になる。

【タイプ別】

全てのタイプに共通して、現在も5年後も「旅行」と「家族との団らん」への関心が高い。

5年後に「ボランティア活動」への関心が高くなるのはタイプ1、3、4である。また、趣味・教養に対する関心はタイプ1、2、3、5が高くなる。

さらに、タイプ1、2、5は健康志向が強く、特にタイプ1ではより活発的な「軽スポーツ」への関心が高い。

生きがい意識の変化

世代別

区 分	生きがい意識				生きがい意識の変化		
	現 在		5年後		伸び率が高い項目		
	項 目	回答率(%)	項 目	回答率(%)	項 目	回答率(%)	伸び率(倍)
55歳世代	テレビ、ラジオ	62.2	旅行	73.0	旅行	72.6	1.4
	仲間とおしゃべり	55.8	仲間とおしゃべり	61.0	散歩、ウォーキング	49.0	1.4
	食事、飲食	53.1	家族との団らん	59.8	家族との団らん	58.9	1.2
60歳世代	テレビ、ラジオ	67.9	仲間とおしゃべり	69.6	旅行	69.9	1.2
	仲間とおしゃべり	61.7	旅行	68.9	仲間とおしゃべり	68.9	1.1
	旅行	55.1	テレビ、ラジオ	63.0	家族との団らん	56.2	1.1
65歳世代	テレビ、ラジオ	69.7	テレビ、ラジオ	68.0	旅行	64.3	1.1
	新聞、雑誌	64.3	旅行	64.4	散歩、ウォーキング	62.0	1.1
	仲間とおしゃべり	61.3	散歩、ウォーキング	60.4	家族との団らん	54.5	1.1

タイプ別

タイプ	現在 / 人気が高い項目		伸び率(倍)	現在 / 人気が低い項目		伸び率(倍)	5年後 / 人気が高い項目		伸び率(倍)	5年後 / 人気が低い項目		伸び率(倍)
	回答率(%)	伸び率(倍)		回答率(%)	伸び率(倍)		回答率(%)	伸び率(倍)		回答率(%)	伸び率(倍)	
1	旅行	61.8	1.2	軽スポーツ	14.5	1.8	テレビ、ラジオ	62.5	0.9			
	散歩、ウォーキング	57.2	1.2	ボランティア活動	29.6	1.7	新聞、雑誌	58.6	0.9			
	家族との団らん	57.2	1.1	教養講座の受講	19.7	1.6						
2	旅行	69.7	1.2	芸術・創作活動	16.4	1.6	新聞、雑誌	57.2	0.8			
	家族との団らん	56.2	1.2	散歩、ウォーキング	47.3	1.2	食事、飲食	58.7	0.9			
				アウトドアレジャー	22.4	1.2	テレビ、ラジオ	60.2	0.9			
3	なし			教養講座の受講	11.5	2.3	新聞、雑誌	59.0	0.8			
				ボランティア活動	11.5	1.9	テレビ、ラジオ	63.1	0.9			
				芸術・創作活動	17.2	1.8						
4	旅行	57.8	1.3	ボランティア活動	15.5	1.6	新聞、雑誌	50.9	0.8			
	家族との団らん	55.2	1.1	菜園、ガーデニング	41.4	1.4						
				インターネット	14.7	1.2						
5	旅行	57.1	1.2	芸術・創作活動	12.6	1.6	食事、飲食	61.8	0.9			
	家族との団らん	53.9	1.1	インターネット	11.0	1.5	テレビ、ラジオ	70.5	0.9			
				散歩、ウォーキング	40.9	1.2						
6	なし			旅行	20.0	2.9	テレビ、ラジオ	70.0	0.8			
				インターネット	10.0	1.9	新聞、雑誌	50.0	0.8			
				家族との団らん	32.9	1.6						

タイプ7～9の各回答者数が少数であり、分析に必要な標本数に不足を生じたため、タイプ1～6のみを分析対象とした。

(2) 生きがい活動の障害

ア. 問5「生きがいを感じて生活していくために最も重要なこと」について世代別、タイプ別に比較した。

世代・タイプを問わず 6割以上が重要視している「健康」以外のものに注目すると、以下のような傾向が見られる。

【世代別】

55歳世代では「金銭的余裕」を重要視する割合が高いが、世代が上がると「一緒に取り組む仲間」を重要視する傾向にある。

(上位回答)

55歳世代		60歳世代		65歳世代	
項目	回答率(%)	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
金銭的余裕	17.8	一緒に取り組む仲間	14.7	一緒に取り組む仲間	12.4
一緒に取り組む仲間	8.9	金銭的余裕	12.7	金銭的余裕	11.2
時間的余裕	4.3	活動に関する情報	3.3	活動に関する情報	3.2

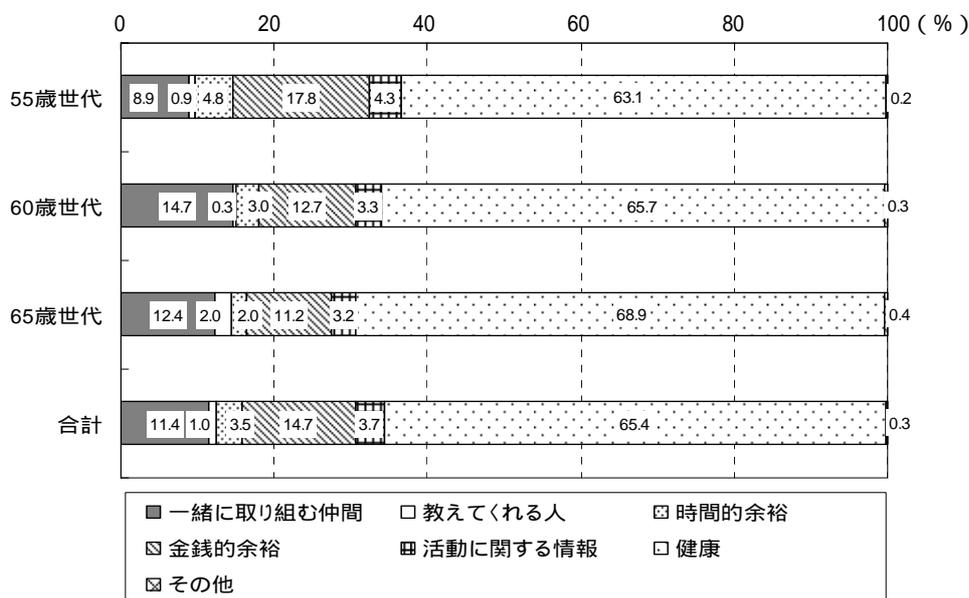
【タイプ別】

特定の範囲の人と行動するタイプ(2,5)で、一緒に取り組む仲間を重要視する割合が高い。

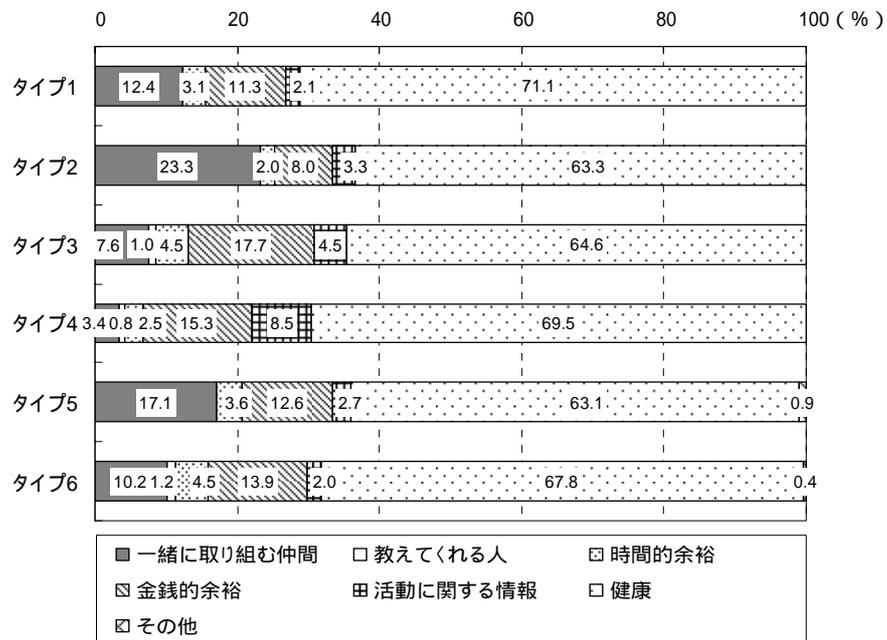
(上位回答)

タイプ1		タイプ2		タイプ3	
項目	回答率(%)	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
一緒に取り組む仲間	12.4	一緒に取り組む仲間	23.3	金銭的余裕	17.7
金銭的余裕	11.3	金銭的余裕	8.0	一緒に取り組む仲間	7.6
時間的余裕	3.1	活動に関する情報	3.3	時間的余裕	4.5
タイプ4		タイプ5		タイプ6	
項目	回答率(%)	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
金銭的余裕	17.8	一緒に取り組む仲間	17.1	金銭的余裕	13.9
活動に関する情報	8.9	金銭的余裕	12.6	一緒に取り組む仲間	10.2
一緒に取り組む仲間	4.3	時間的余裕	3.6	時間的余裕	4.5

問5 生きがい活動に最も重要なこと(世代別)



問5 生きがい活動に最も重要なこと（タイプ別）



「タイプ1、2、5」の「教えてくれる人」、「タイプ1~4」の「その他」は「0%」

イ. 問6「次のことに対してどのくらい自信がありますか」を世代別、タイプ別に比較した。

【世代別】

人生設計、リーダーシップ、社会に活かせる技術や知識について、全世代の6割以上が「どちらかという自信がない」と回答しており、将来への不安や消極性が窺える。

地域とのかかわりについては世代が上がるにつれて自信をもつ傾向があるが、それ以外では特に世代間の差は見られない。

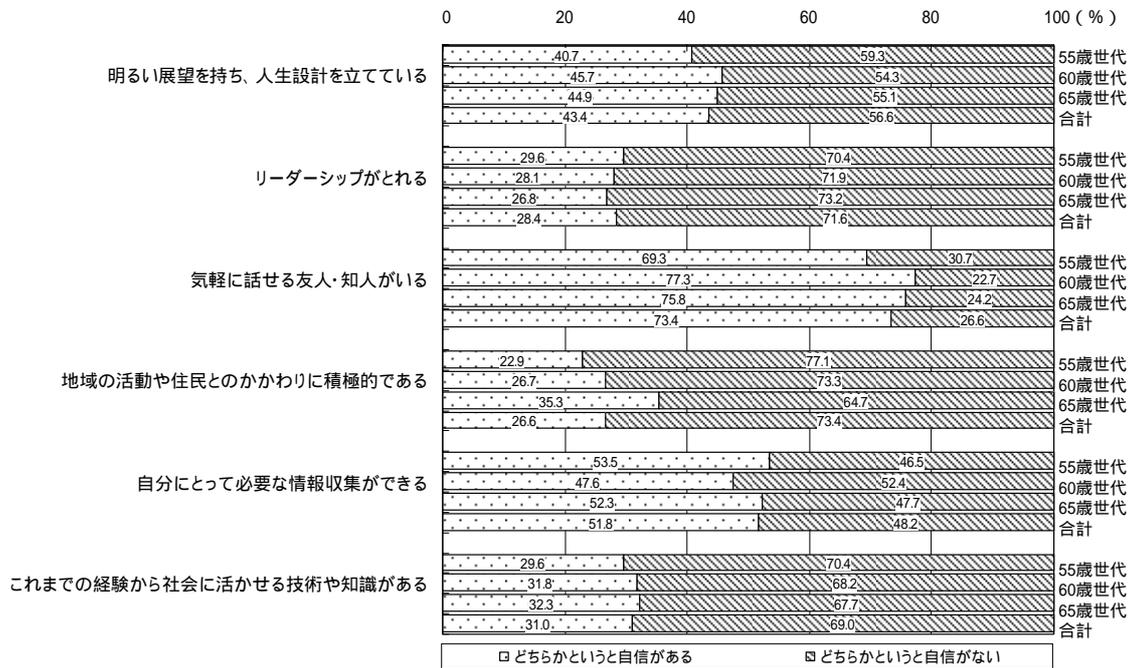
【タイプ別】

人生設計、リーダーシップ、情報収集、社会へ活かせる技術や知識について、概ねタイプ1からタイプ6へと移行するにつれて割合が低くなる傾向があり、その人の積極性を反映している。

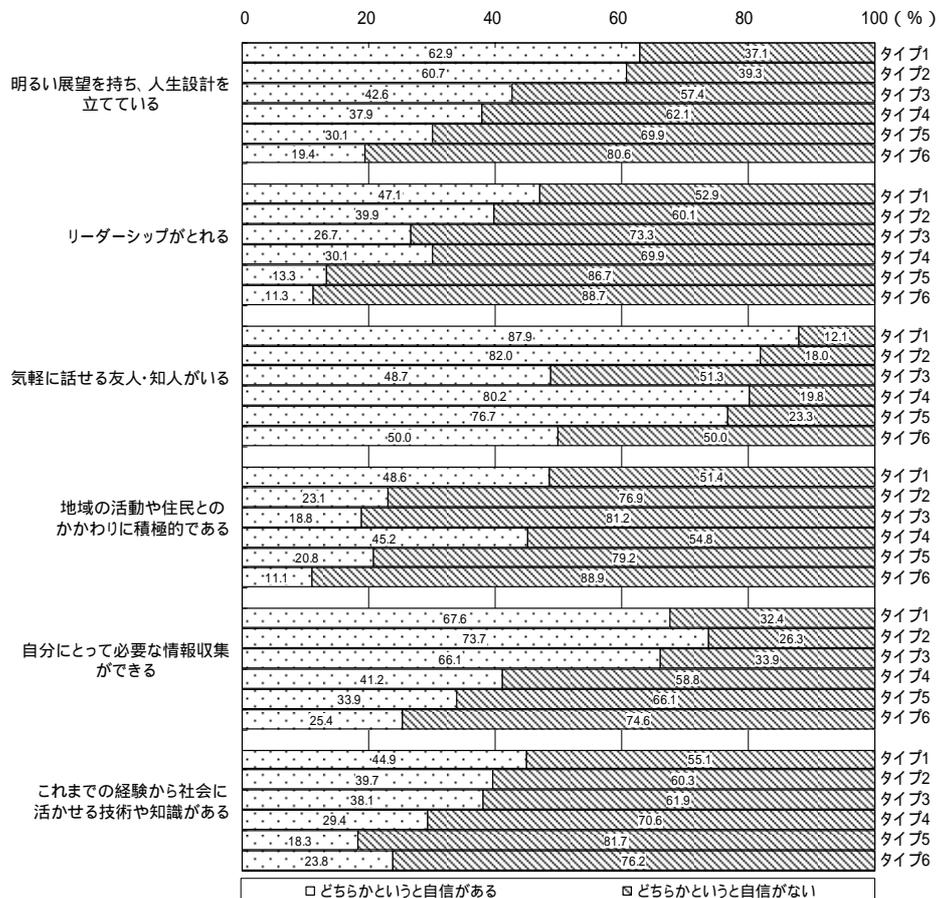
気軽に話せる友人の有無では、タイプ1、2、4、5の約8割以上が「どちらかという自信がある」と回答しているのに対し、タイプ3、6はその割合が5割程度にとどまり、社会性の差が顕著である。

地域とのかかわりについては、タイプ1、4がほかのタイプに比べて突出しており、地域性の高さがこのタイプの特徴といえる。

問6 次のことに対してどのくらい自信がありますか（世代別）



問6 次のことに対してどのくらい自信がありますか（タイプ別）



(3) 生きがい活動の支援需要

問7「生きがいを見出すための支援策や講習」を世代別、タイプ別に比較し、生きがい活動の支援需要を把握した。

「健康づくりに関する講習会やセミナー」、「各種趣味実技に関する講座」は全ての世代・タイプで活用すると答えた割合が高い。

【世代別】

「有料でも活用する」「無料であれば活用する」を回答したもので世代間に最も差がある項目は「インターネット・パソコン講習」であり、55歳世代の約6割が活用すると答えているのに対し、65歳世代は4割弱にとどまっている。

その他55歳世代では、「就業に関する情報提供」「就業を支援する研修や訓練」「能力開発に関する情報提供やセミナー」と答えた割合が他の世代より高く、就業に関するニーズの高さが窺える。

【タイプ別】

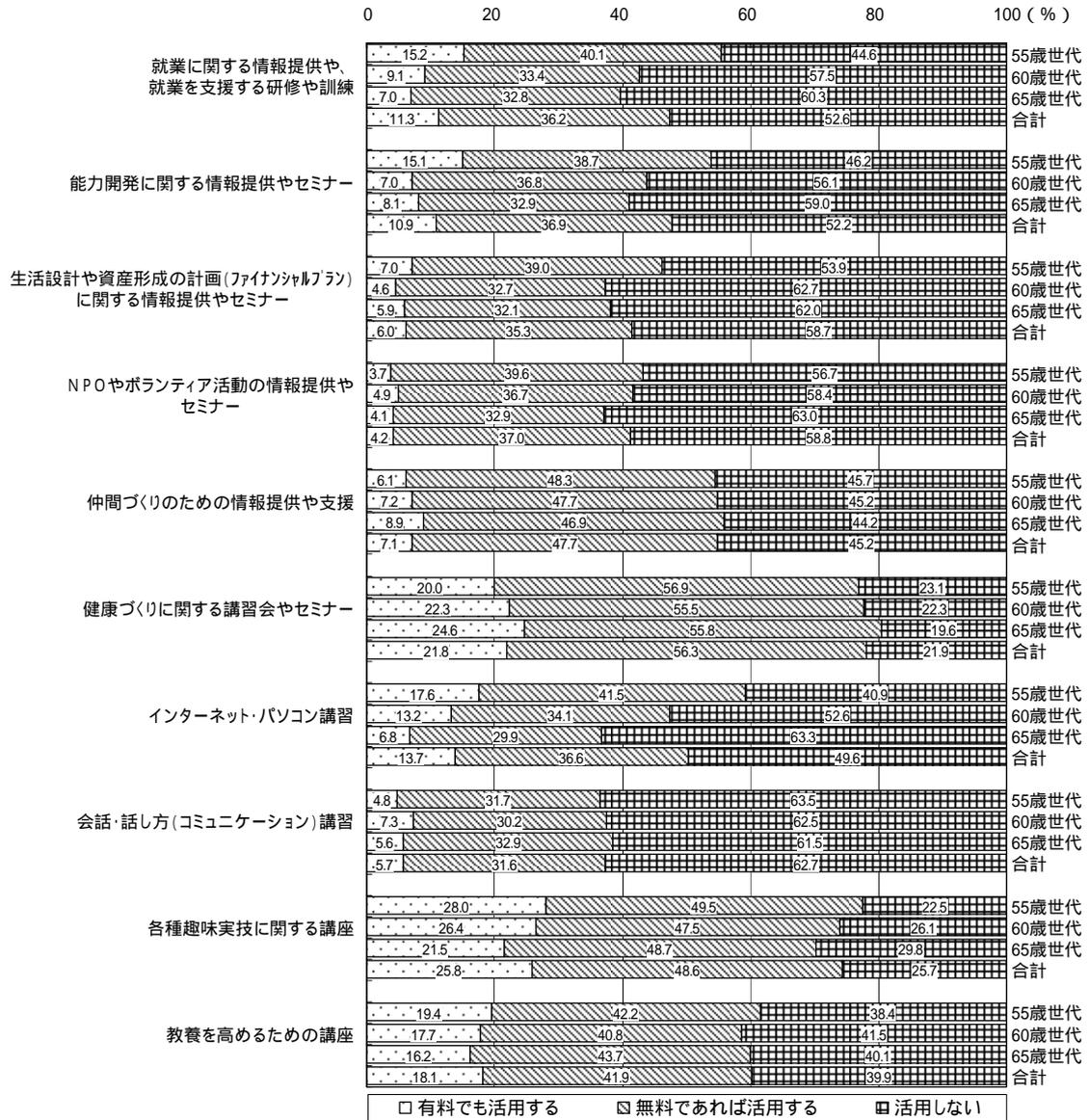
「有料でも活用する」「無料であれば活用する」についてタイプ間の回答状況を見ると、タイプ1は全ての項目において活用すると答えた割合が5割以上である。特に能力開発やNPO・ボランティア活動に関する関心が他のタイプより高く、積極性と社会貢献意識の高さがこのタイプを特徴付けている。

「仲間づくりのための情報提供や支援」「会話・話し方(コミュニケーション)講習」では、タイプ1、4が活用すると答えた割合が高い。

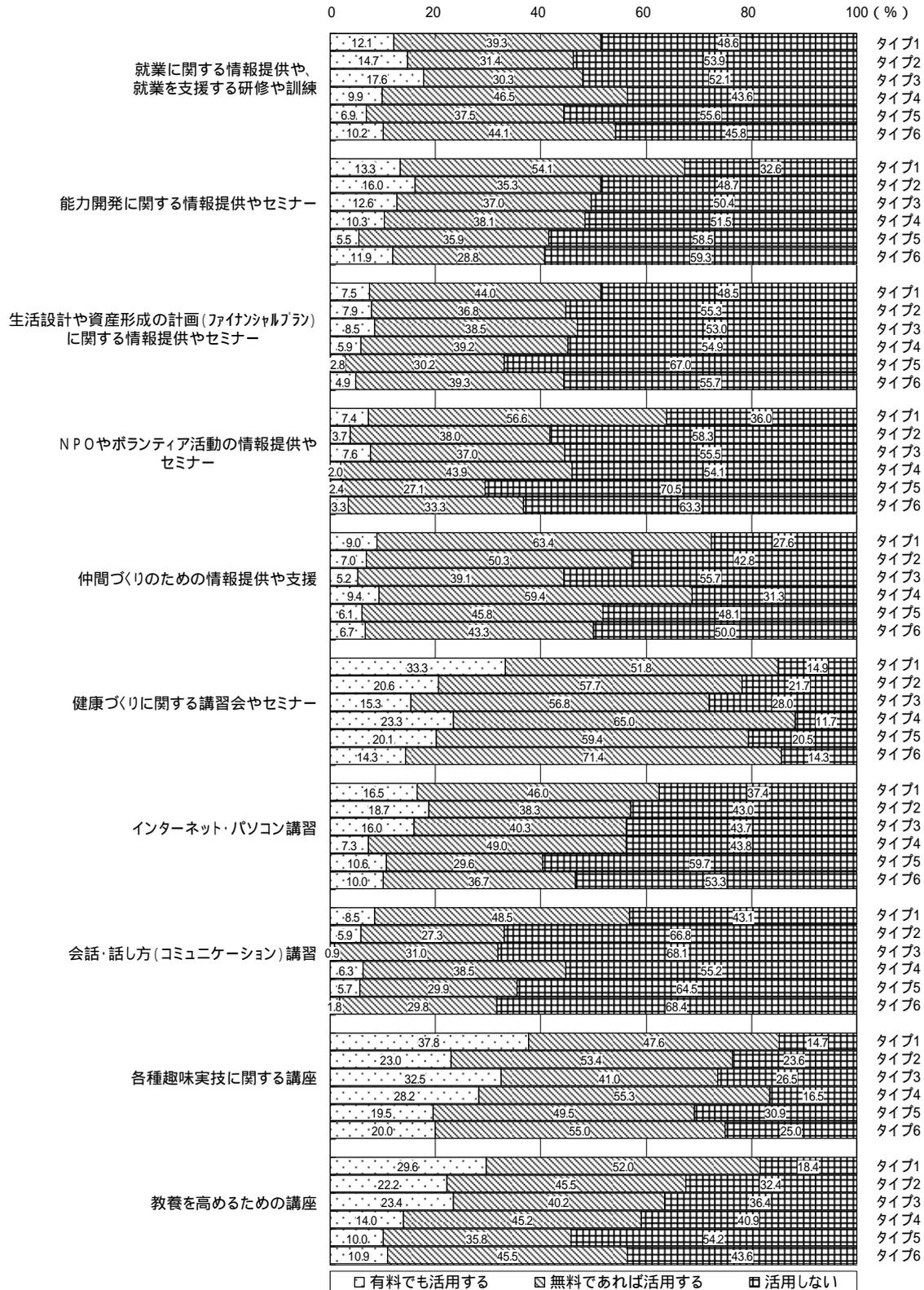
「就業に関する情報提供や、就業を支援する研修や訓練」は、タイプ1、4、6で5割以上が「有料でも活用する」「無料であれば活用する」と答えている。

逆に、各項目で「活用しない」と答えている割合が高いのはタイプ5と6であり、特に能力開発、NPO・ボランティア、インターネット・パソコンへの関心が他のタイプよりも低くなっている。

問7 生きがいを見出すための支援策や講習（世代別）



問7 生きがいを見出すための支援策や講習(タイプ別)



(4) 生きがい活動の情報源

問8「普段利用する主な情報源」を世代別、タイプ別に比較し、生きがい活動の情報源を把握した。

全体としては新聞、テレビなどが情報源として多く利用されており、それ以外の情報源に着目すると以下のような傾向が見られる。

【世代別】

「インターネット」は世代が下がるほど多く、一方、「広報とよはし」、「パンフレット・チラシ」、「ポスターなどの掲示物」、「町内会の回覧版」は世代が上がるほど利用する傾向がある。

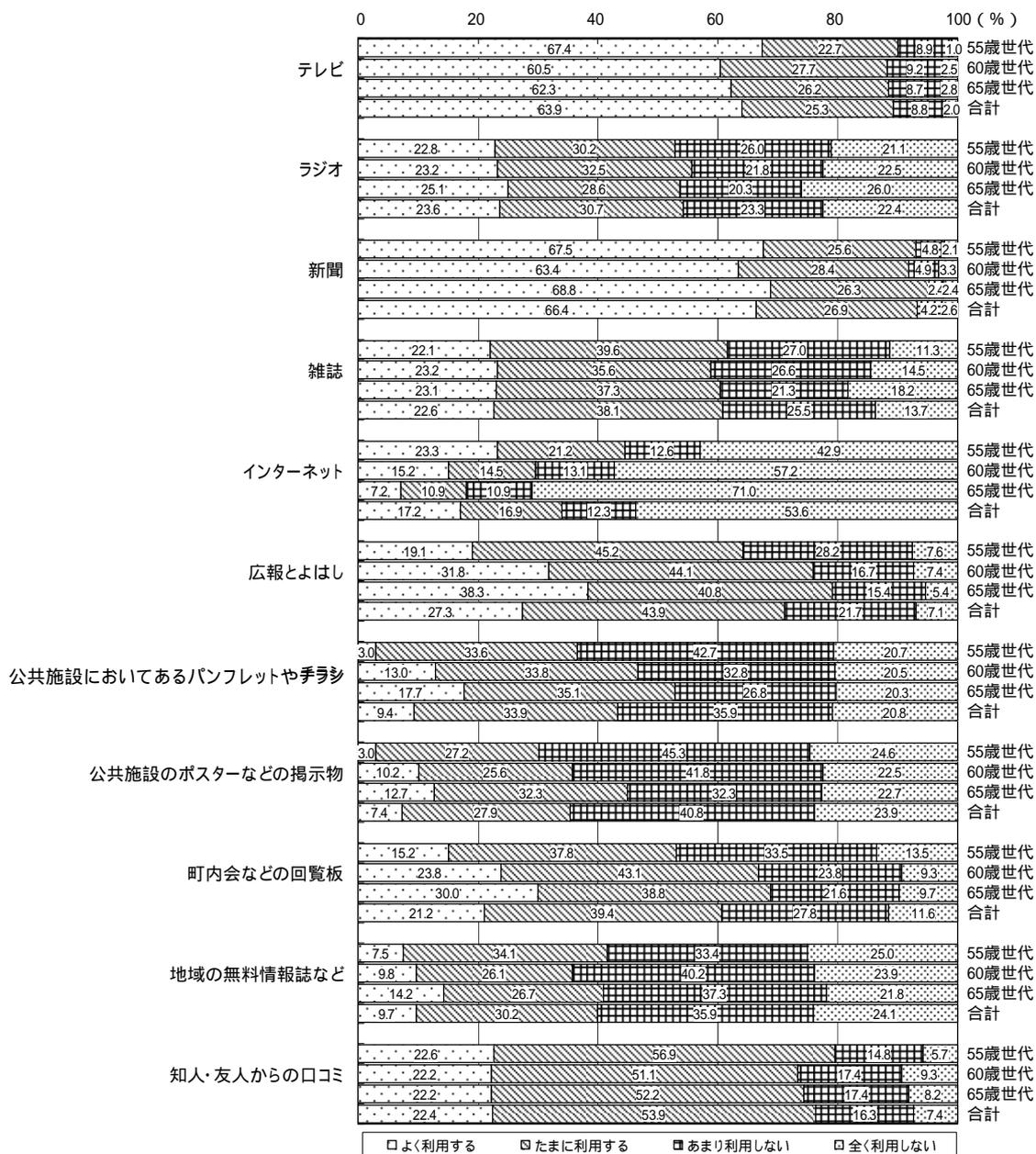
【タイプ別】

タイプ1、4、5は新聞、テレビの次に「広報とよはし」と回答している。

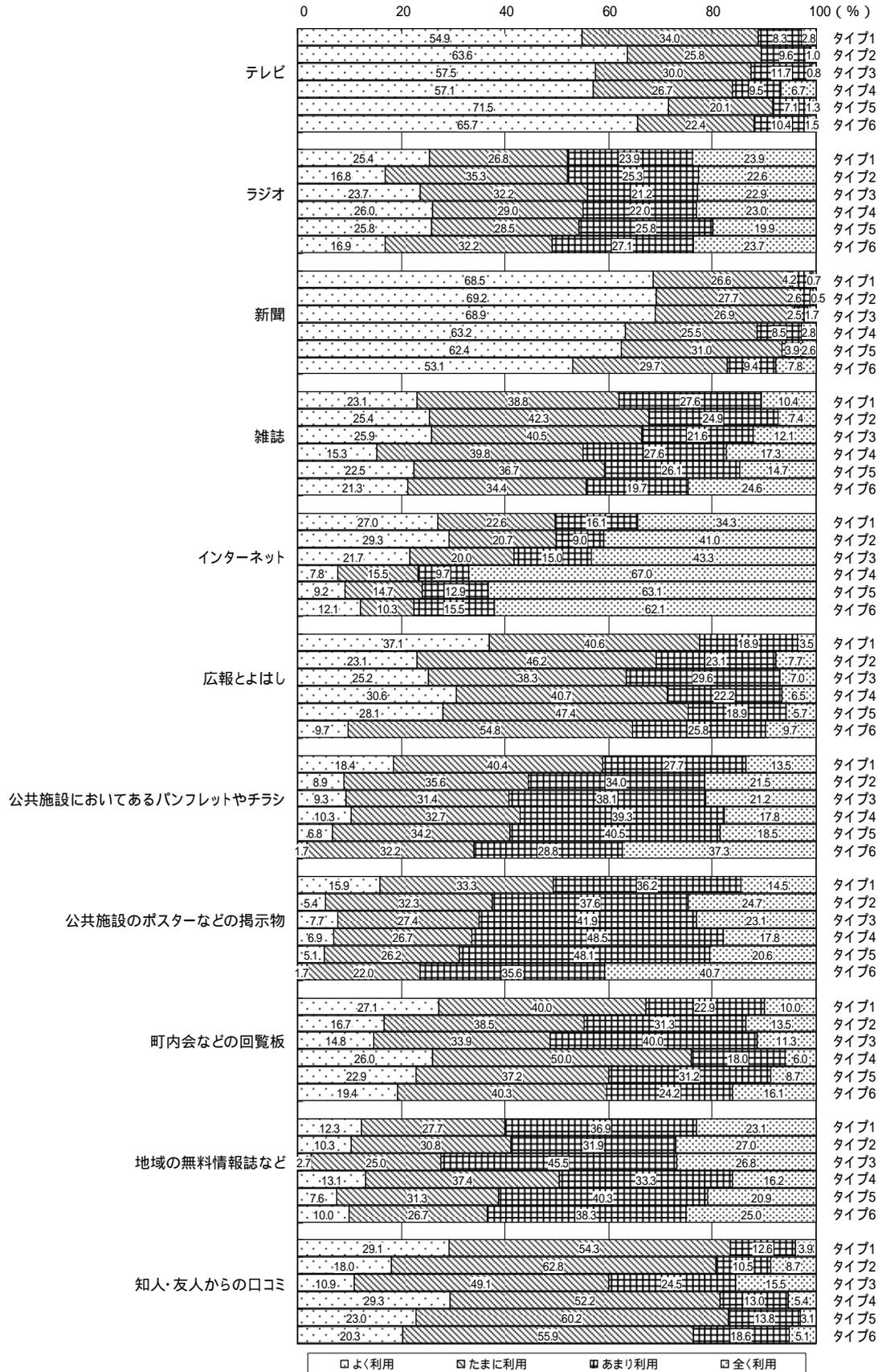
タイプ1、2、3は他のタイプに比べて「インターネット」の利用率が高く、活動が積極的であると「インターネット」を情報源として活用する人が多い。

また、タイプ1、4は他のタイプに比べて「知人・友人からの口コミ」が多い。

問 8 普段利用する主な情報源（世代別）



問 8 普段利用する主な情報源（タイプ別）



(5) 社会貢献活動に関する意識差【世代別のみ】

問 9、問 10 よりボランティアや地域活動等、社会貢献活動への取り組みについて、各世代でどのような意識差があるか把握するため、参加意識と報酬等に対する意識について比較した。

世代が上がるにつれて実際に参加する割合が高くなり、また、参加を期待する場合も人とのつながりを求める傾向が強くなる。

社会貢献活動に対する報酬等については、全世代を通して必要経費を求める意見が過半数を超え、次いで無報酬で構わないという傾向は世代が上がるにつれて強くなる。

ア．社会貢献活動について

項 目		回答率(%)		
		55歳世代	60歳世代	65歳世代
参加中		6.3	7.7	11.2
参加したい	機会・情報があれば	28.8	27.0	17.9
	仲間がいれば	20.0	21.2	26.1
参加したくない	必要性は感じる	35.5	36.0	33.6
	関心がない	9.4	8.0	11.2

イ．社会貢献活動をする場合の報酬等について

項 目		回答率(%)		
		55歳世代	60歳世代	65歳世代
無報酬でよい		25.5	28.5	36.5
対価が必要	必要経費は支払われるべき	61.4	66.3	58.1
	日当、謝礼は支払われるべき	11.5	4.2	5.4
	給与として支払われるべき	1.6	1.0	0.0

(6) 仕事に関する意識差【世代別のみ】

問 11、問 12 より仕事への取り組みについて、55 歳世代とその他世代ではどのような意識差があるか把握するため、5 年後の仕事への取り組みとその理由について比較した。

世代が上がるにつれて仕事意欲は徐々に低下するが、労働日数や労働時間の短い仕事の需要は年齢が高い世代でも減少しない。

仕事をする理由では「生きがい」は年齢が高い世代でもほぼ変わらないが、「収入」は世代が上がるにつれて減少し、その反面「健康」は徐々に増加する。

ア．5 年後の仕事

順位	55歳世代		60歳世代		65歳世代	
	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
1	パートタイム週数回	31.8	パートタイム週数回	27.2	働きたいと思わない	34.3
2	フルタイム(常勤)	22.3	働きたいと思わない	24.7	パートタイム週数回	22.5
3	働きたいと思わない	15.5	月数回、単発	22.8	月数回、単発	20.7
4	パートタイム毎日	14.9	パートタイム毎日	10.6	パートタイム毎日	7.0
5	月数回、単発	10.3	フルタイム(常勤)	8.4	フルタイム(常勤)	5.2

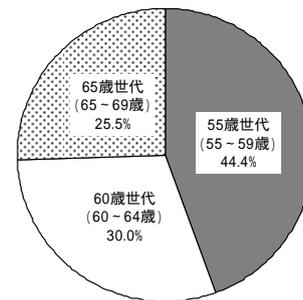
イ．5 年後に仕事をする理由

順位	55歳世代		60歳世代		65歳世代	
	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
1	収入を得るため	34.5	健康のため	32.1	健康のため	37.0
2	楽しみや生きがいのため	33.6	楽しみや生きがいのため	31.7	楽しみや生きがいのため	28.6
3	健康のため	21.3	収入を得るため	19.3	収入を得るため	13.4
4	その他	6.9	その他	10.3	その他	13.0
5	仲間づくりのため	3.7	仲間づくりのため	6.6	仲間づくりのため	8.0

3. 世代及びタイプの意識差

(1) 世代による意識差

今回の調査では、対象者全体を年齢により3世代に分けて分析した。調査結果について世代による意識差を見た結果、分析される傾向は以下のとおりである。



ア. 全ての世代に共通する傾向

全ての世代に見られる傾向として、健康、教養、趣味・実技への関心が非常に高いことが挙げられる。また、テレビ、新聞を通じて情報収集を行う頻度が非常に高く、次いで口コミを利用する頻度が高い。

また、社会貢献活動については、「参加している」「条件さえ合えば参加したいと考えている」と回答した人は半数を超えているが、必要経費は支払われるべきと感じる傾向がある。

イ. 年齢層が低い世代に傾向の強いもの

年齢層が低い世代ではパソコンやインターネットを使用し、情報収集手段の一つとして活用しており、就業や能力開発、資産形成、商売など、収入や金銭に結びつくものへの興味を持つ傾向がある。将来的に継続して長時間働きたいという回答の割合が高いことも特徴である。

また、ヒアリング調査からも、社会貢献活動へ興味を示し情報を求めている等、アンケート調査と同様の傾向が見られる。

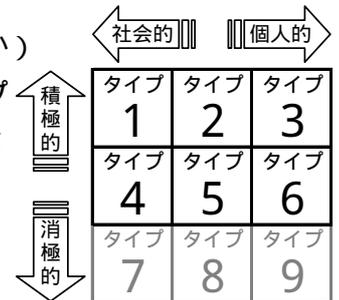
ウ. 年齢層が高い世代に傾向の強いもの

年齢層が高い世代になるにつれて、町内会回覧板の利用頻度が高いことや地域活動への参加頻度など、地域的な交流を求める傾向が見られる。就業などに対する興味は年齢が低い世代に比べ薄れているが、活動に際し金銭を重要視する傾向はあまり変わらない。また、情報の収集手段として広報とよはし等の活字媒体を使用する頻度が高いのも特徴である。

社会貢献活動については、参加したいという要望は減少しているが、実際に参加している人が増加することが傾向として見られた。参加したいと考える場合も、参加条件に仲間を挙げる傾向が強い。

(2) タイプによる意識差

今回の調査では、対象全体を社会性（多くの人と関わりがあるかどうか）と、積極性（積極的に行動するかどうか）の2つの側面から9つのタイプに類型化した。この中で全体の94%以上を構成するタイプ1~6の調査結果について意識差を見た結果、分析される傾向は以下のとおりである。



ア．全てのタイプに共通する傾向

全てのタイプに見られる傾向として、教養、健康、趣味・実技への関心が非常に高いことが挙げられる。また、テレビ、新聞を通じて情報収集を行う頻度が非常に高く、次いで広報とよはしや口コミを利用する頻度が高い。

しかしタイプ間でその度合いはやや異なり、行動に対して積極的なタイプは趣味・実技への関心の度合いが高く、行動に対して消極的なタイプは教養や健康への関心の度合いが高い傾向がある。

イ．積極性による傾向

積極的なタイプであるほど、パソコンやインターネットのような最新技術を含めたあらゆる分野に広い関心を持っている。また、さまざまな方法で情報収集を行い、そういった行動に裏付けられた知識や経験に自信を持つ傾向が見られる。

ウ．社会性による傾向

社会的なタイプであるほど地域的なつながりが強くなり、地域活動、ボランティアや仲間づくりに関心を持ち、普段の活動は仲間や家族と共にすることが多い。さらに、現時点において将来的にも続けたいと思うならかの活動を行っている傾向がある。反面、社会性が低くなるにつれて個人的な活動に関心が移り、将来的に何か行いたいと考えるが、現時点においては特に趣味を持たない傾向が強まる。

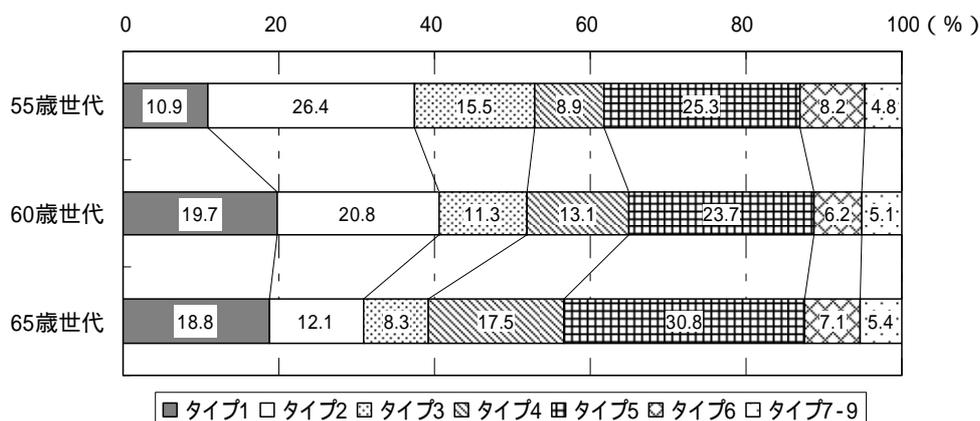
また、社会性が最も高いタイプ1、4と最も低いタイプ3、6では活動に対して金銭を重視し、就業に対して関心を持つ傾向が見られる。一方、特定範囲において活動するタイプ2、5は、金銭よりも仲間を重視する傾向が見られる。

エ．積極性と社会性による傾向

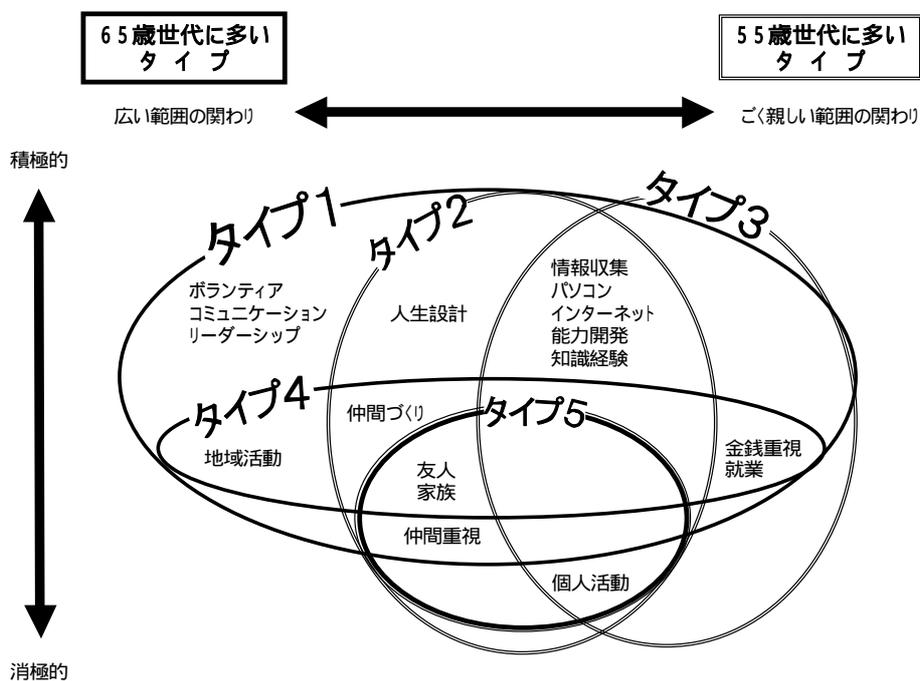
積極性と社会性の両面が高いほどリーダーシップに自信を持つ傾向が強まり、最もその特性が高いタイプ1では、人との交流やボランティアに強い関心を示す傾向がある。また、健康に関する活動等、全てのタイプが将来的に行いたいと考える活動について、既実践している人が過半を超えるのはタイプ1のみである。

(3) 世代とタイプの関係

世代ごとにタイプの分布を見ると、世代によってタイプの分布に特徴があることがわかる。世代が下がるにつれて行動が積極的になるが、ごく親しい範囲の人と活動する傾向がある。一方、世代が上がるにつれて行動が消極的になる人がやや増える反面、活動の社会性が高まり、多くの人との関わりを求める傾向がある。



また、世代・タイプとその傾向の相関イメージは次のとおりである。



活力ある高齢社会を実現するためには積極性と社会性両面を兼ね備えたアクティブシニアの存在が不可欠だと思われるが、現在の55歳世代が年齢を重ねたとき、いずれ現在の65歳世代と同じ意識・傾向をもつとは限らない。行政としてこれから時代の要求にどう対応していくのかということが重要である。

第4章 今後の課題と展望

前章の分析結果は、社会性・積極性がともに高いタイプ1のアクティブシニアが、今後の活力ある高齢社会実現のために重要な存在であることを示した。その特性から、アクティブシニアの行動が同世代のシニアへ与える影響は大きく、彼らと協力しながらこれからの事業を推進していくことが重要である。

そのためには、より多くのアクティブシニアが社会で活動するための環境が必要であり、そのような環境の整備が今後行政の果たすべき役割と考えられる。さらに、これから大量退職を迎える「団塊の世代」の動向にも注目しなければならない。

これらを踏まえ、今後の課題と展望について検討した。

安定した活動をするために

55歳世代及びアクティブシニアは、生きがい活動において「金銭」や「就業」に強い関心を示すことが窺える。その理由として、55歳世代は昨今の社会情勢により経済的な面で将来に不安を抱えていること、一方、アクティブシニアにとっては、活動していく上での活動資金が必要であることが推測される。故にまず経済面での安定を図ることが、生きがい活動に積極的に取り組むことへ繋がると考える。

シニアにとっては、コミュニティビジネス（地域住民が、地域を活性化したり、地域の課題を解決するために、有償で自ら取り組む事業）の創出等、長年培ってきた知識や経験を生かす新たな取り組みを図ることが重要となる。一方、行政としてはそういったシニアへの支援や就業に関する更なる支援など、シニアのニーズに即した新たな施策への取り組みも必要である。

生きがいづくり

生きがい活動へのシニアのニーズは多岐にわたっている。現行の行政による様々な講座などの支援策に加え、民間の力の活用も視野に入れながら、多様化するニーズへ対応していく必要がある。

情報の共有

自由意見で最も多く見られたのが情報提供を望む声であり、既存の情報提供だけでは対応が不十分であることが読み取れる。そのため、今後は異なる世代やタイプに即した情報の提供を行うことが課題である。

まず、世代が上がるにつれて「広報とよはし」などの印刷物・活字を利用する傾向が高まるため、見やすさ、分かりやすさへの工夫が重要となる。また、「地域の回覧板」も世代が上がるにつれて利用率が高いことから、地域を通じた活字情報の伝達が有効的といえる。

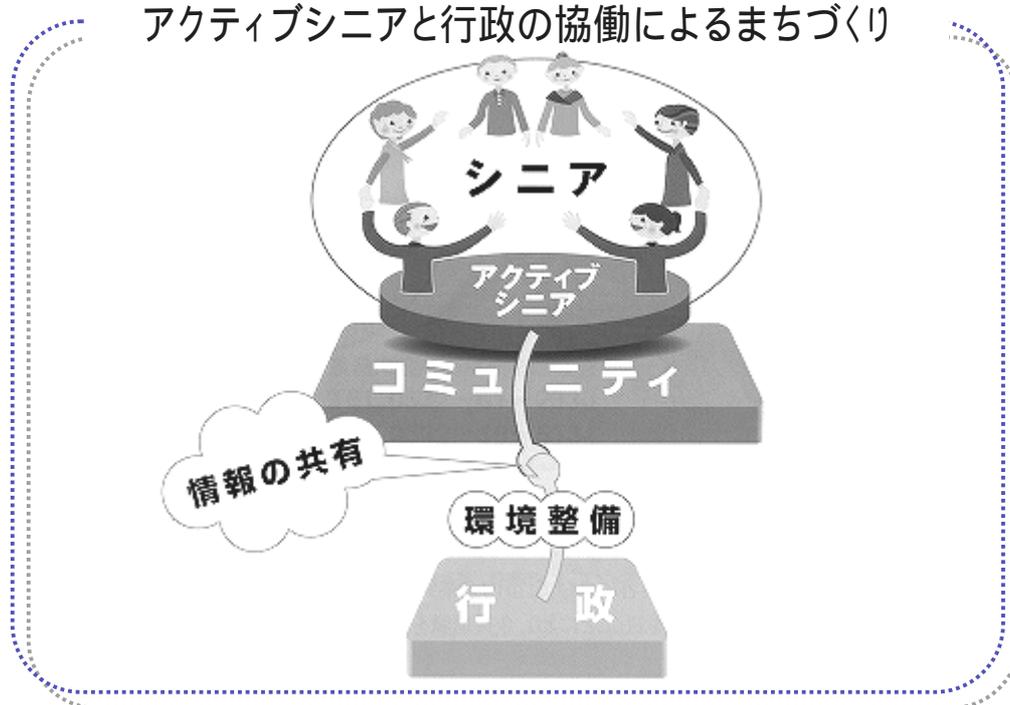
さらに、市民の多様なニーズに対応するためには、一方向の情報の提供だけでなく、シニアと行政が互いの情報を共有することも重要となる。その手法として、インターネットの活用が挙げられる。アンケートからは、世代が下がるにつれて、また、アクティブであるほどインターネットによる情報収集の需要が高いことが窺える。インターネットを活用することで、シニア同士の横のネットワークの構築が可能となり、さらにはシニアと行政の距離を縮めることが可能となる。

コミュニティの活性化

シニアがアクティブシニアへと移行していくためには、まずなんらかのコミュニティに属することが第一歩であると考えられる。コミュニティは、さまざまなタイプのシニアが接点を持ち、アクティブシニアが周囲のシニアと連携して活動していく基盤として重要なものである。

なお、本調査の分析結果を念頭に置くと、シニアにとって身近なコミュニティの活性化が今後重要となってくると予想される。そのようなコミュニティの活性化に対して積極的な支援体制をとり、シニア同士の自発的な交流を促進していくことが行政の課題である。

アクティブシニアと行政の協働によるまちづくり



コミュニティ ... 一般的に、地域共同社会を指す

現在は本格的な高齢社会に向かう過渡期である。今後、アクティブシニアと行政が協働して活力あるまちづくりを実現していくためには、定期的な意識調査を行い、その時代のニーズを把握し、その調査結果を広い分野で活かしていくことが重要ではないだろうか。

55歳からの楽しみや生きがいづくりに関する意識調査
～アクティブシニアによる活力あるまちづくりに向けて～
報 告 書

平成 19 年 3 月
豊 橋 市